中期目標の達成状況に関する評価結果

（４年目終了時評価）

千葉大学

令和３年６月

大学改革支援・学位授与機構

目　　次

法人の特徴　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

（法人の達成状況報告書から転載）

評価結果

≪概要≫　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　25

≪本文≫　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　26

≪判定結果一覧表≫　・・・・・・・・・・・・・・・・・　41

法人の特徴

大学の基本的な目標（中期目標前文）

千葉大学は、「千葉大学憲章」に掲げた理念を具現化し、使命を達成するために、基本的な目標を以下のとおり定める。

人類の文化の継承と新たな知の創造、イノベーションの創出を担う世界水準の教育研究拠点として、グローバルな視点から積極的に社会との関わりを持ち、高い教養、専門的な知識・技能と優れた問題解決能力を備えた人材を育成し、現代社会における様々な課題を解決するための創造的・独創的研究を展開して、人類の平和と福祉並びに自然との共生に貢献する。

（１）世界水準の教育研究機能を有する未来志向型総合大学として、その多様性、学際性、そして国際性を最大限に生かし､優れた教育プログラムと最善の環境を提供することで､｢俯瞰力｣「発見力｣｢実践力｣ を身につけ、問題解決能力のあるグローバル人材を育成する。
能動的な学びによって普遍的な教養を身につけ、自立して、自らの良心と社会的規範に則って行動し、創造性・国際性とチャレンジ精神に富む人材の育成を推進する。

（２）先駆的・先端的研究及び融合型研究を推進するとともに、特色ある研究分野の戦略的強化をして卓越した大学院を形成し、世界・日本・地域に貢献可能なイノベーション創出に結び付く世界水準の教育研究拠点とする。

（３）国内及び海外の教育研究機関、行政、地域社会、そして企業等と積極的に連携し、知の発信拠点形成を推進して、社会への貢献及び文化と科学の発展に寄与する。

（４）千葉大学の理念「つねに、より高きものをめざして」の下で、持続的かつ自律的に発展を続けるために、多様な構成員が積極的に協働しつつ、世界水準の教育研究機能を有する未来志向型総合大学としての発展を目指す。

法人の特徴や特色

・本学は 1949 年に５学部からなる新制国立大学として発足。現在は、１０学部、１３大学院（研究院、学府含む）から成る大規模総合大学として発展。うち国際教養学部（2016 年度開設)、看護学部、園芸学部は国立大学唯一の学部。大規模総合大学でありながら、部局間の垣根の低いことが特徴。
【図表１　千葉大学の運営組織・教育研究組織】

・教員数は 1,407 人（特任教員を含む)、職員数は 1,951 人（2019 年５月１日現在)。
・学生数は学部学生 10,547 人、大学院学生 3,436 人の計 13,983 人（2019 年５月１日現在)。
・学部、研究科・学府別の学生数等は大学ポートレートのとおり。
【資料　大学ポートレート 千葉大学 基本情報】

・西千葉キャンパス（稲毛区)、亥鼻キャンパス（中央区)、松戸キャンパス（園芸学部、園芸学研究科)、柏の葉キャンパス（環境健康フィールド科学センター）の県内４キャンパスから構成。
・亥鼻キャンパスには医学部・薬学部・看護学部等の生命科学系部局が一堂に結集。この利点を活かし、３学部が協働学習で患者中心の専門職実践能力を養う「専門職連携教育（IPE)」を先導的に 2007 年度から実施。
・学士教育課程では、教養教育とリテラシー教育を「普遍教育」と呼称。総合大学としての特色

を最大限に活用し、部局の垣根を超えた「全学出動体制」により実施。

・世界水準の教育研究機能を有する未来志向型総合大学としての発展を目指すため、2015 年に本学のビジョン「VISION CHIBA UNIVERSITY 2015-2021」を策定。

【図表２　本学のビジョン】

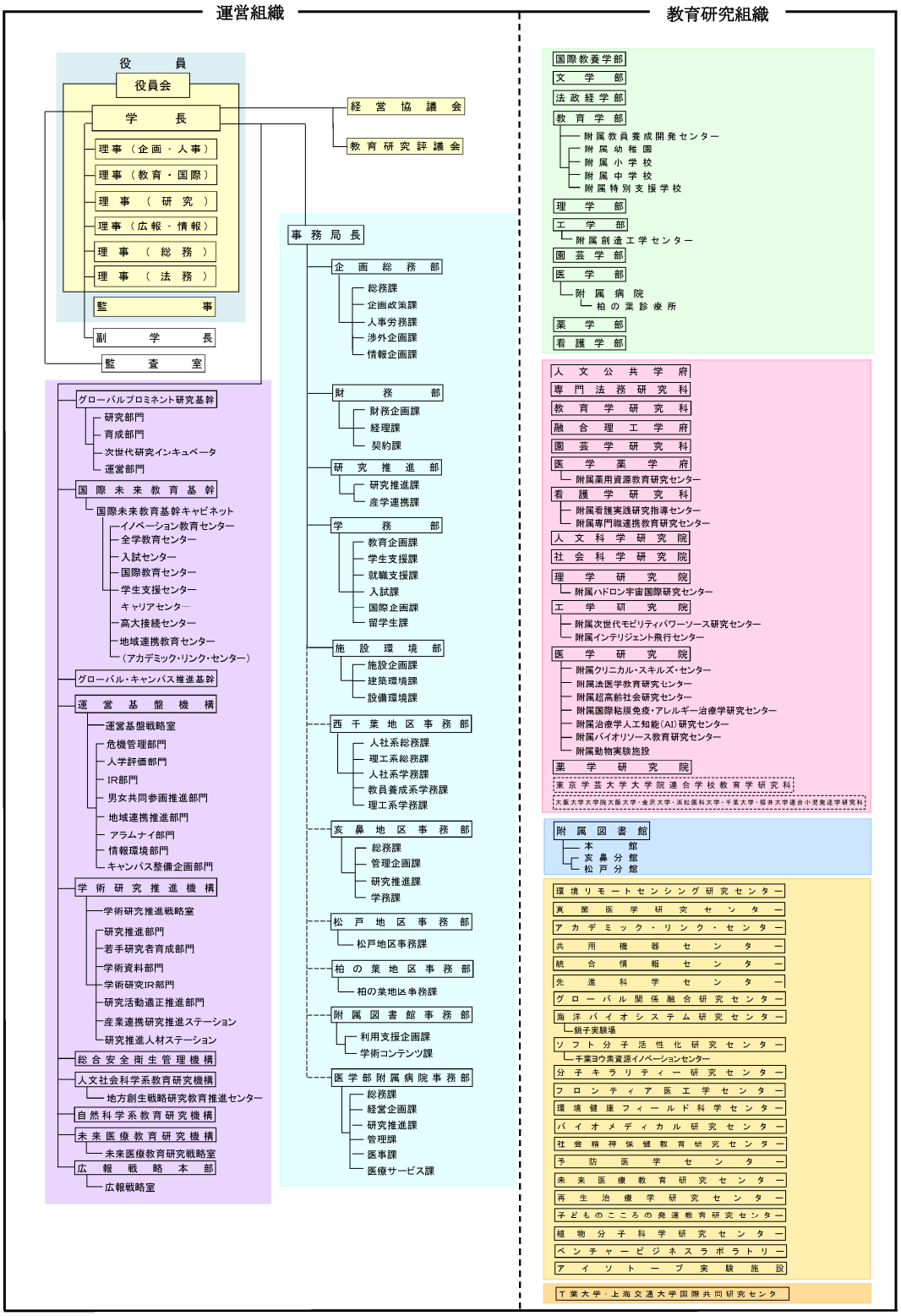
・第３期中期目標期間の運営費交付金における３つの重点支援枠として「卓越した成果を創出している海外大学と伍して、全学的に卓越した教育研究、社会実装を推進する取組を中核とする国立大学」の重点支援③を選択。

・本学では、学長のリーダーシップの下、「人文社会科学系、理工学系及び生命科学系の３分野における世界レベルでの研究（研究三峰）の推進」及び「次世代を担うイノベーションの創出を強力に推進・実現」とともに、国立大学に対する社会的な要請である「イノベーション創出人材の育成」や「融合分野・新領域創出の基礎となる幅広く多様な学術研究の継承・発展」等への貢献を戦略的に推進。

【図表３　研究三峰（トリプル・ピーク・チャレンジ)】

図表１　千葉大学の運営組織・教育研究組織

令和元年10月1日



（出典：事務局作成資料　2019 年度）

図表２　本学のビジョン「VISION CHIBA UNIVERSITY 2015-2021」

Global

国際社会で活躍できる次世代型人材の育成

- 国際未来教育基幹の創設による世界水準の教育実践と次世代型人材育成
- 「グローバル千葉大学の新生」(スーパーグローバル大学等事業)の着実な実施
- 国際的なネットワークの構築による教育研究拠点の創成

Research

研究三峰(トリプル ピーク チャレンジ)の推進

- グローバルプロミネント研究基幹の創設による独創的な次世代研究への戦略的支援
- 亥鼻キャンパス高機能化構想による治療学創成に向けた未来医療研究拠点形成
- 文理の枠を超えた融合型研究の推進

Innovation

次世代を担うイノベーションの創出

- イノベーションの創出に向けた産業連携研究の推進・強化
- 研究成果の社会実装へ向けた知的財産の確保と活用
- イノベーション創出人材の育成と組織改革

Branding

千葉大学ブランディングの強化

- 卓越した教育・研究力による国際的な信頼の向上
- 戦略的広報活動の推進
- 卒業生・企業・社会等との連携強化

Synergy

教職員による協働体制の強化

- 戦略的な大学運営に向けたガバナンス機能の強化
- 多様な人材(ダイバーシティ)の活用による教育研究活動の活性化
- リスクマネジメントシステムの充実

（出典：千葉大学ウェブサイト　2019 年度）

図表３　研究三峰（トリプル・ピーク・チャレンジ）

（出典：事務局作成資料　2019 年度）

［個性の伸長に向けた取組（★）］

１．研究

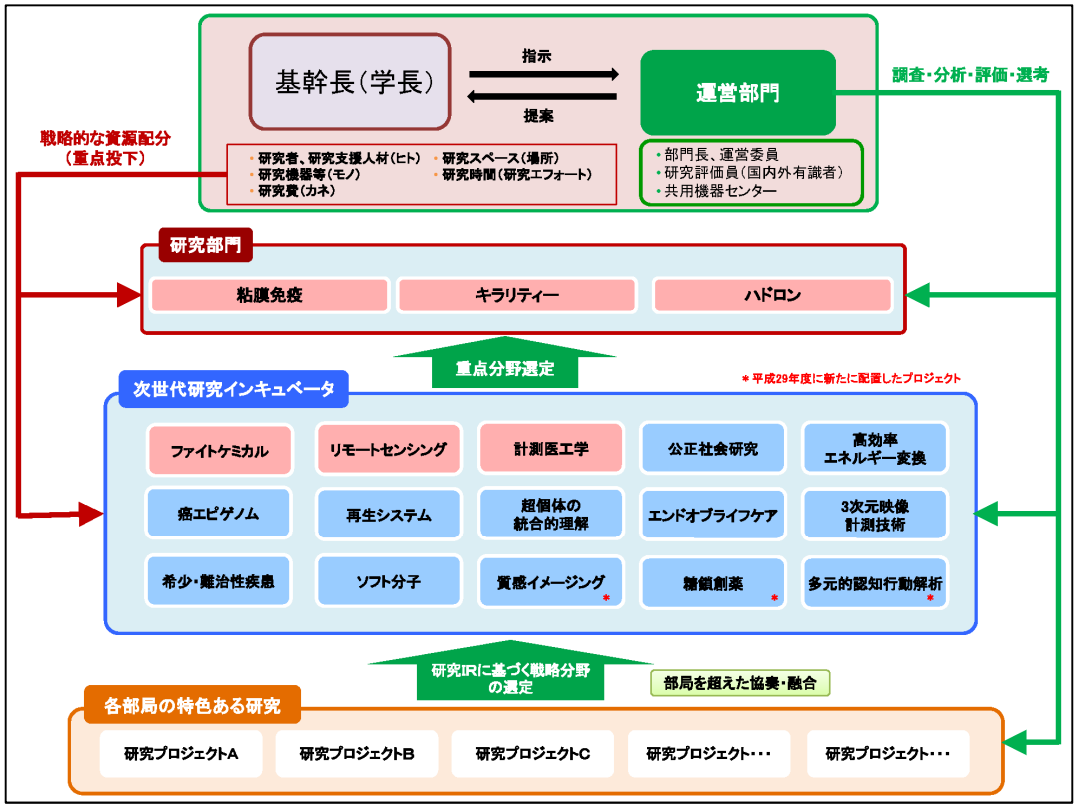
○グローバルプロミネント研究基幹による卓越した研究拠点形成

・学長のリーダーシップの下で、本学の研究戦略（「人文社会科学系、理工学系、生命科学系分野における世界レベルの研究の推進」、「次世代を担うイノベーションの創出」）を強力に推進するため、本学の研究の核となる新規性・独創性を備えた多様で発展性のある研究群を、長期間に亘り継続的に創出することを目的とする「グローバルプロミネント研究基幹」を2016 年度に設置。（関連する中期計画２－１－１－１、２－２－１－１）

・本基幹長（学長）の下に、学内研究資源を集約し、研究を推進するために必要とされる研究資源の戦略的配分機能、研究分野・プロジェクトの調査・分析・評価機能、研究マネジメント改革、資源マネジメント改革等を通じた研究力強化方策の企画・運用に係るマネジメント機能の中核を担う「運営部門」を設置。（関連する中期計画２－１－１－１、２－２－１－１）

・さらに、本学の研究の核となる重点推進分野として国際的卓越研究を推進する「研究部門」、次世代を担う研究の育成・強化を目的とした「次世代研究インキュベータ」を設け、本学の研究力強化に資する体制として整備。
（関連する中期計画２－１－１－１、２－２－１－１）

図表４　グローバルプロミネント研究基幹の体制



（出典：平成 29 事業年度に係る業務の実績に関する報告書　2018 年度）

２．グローバル化

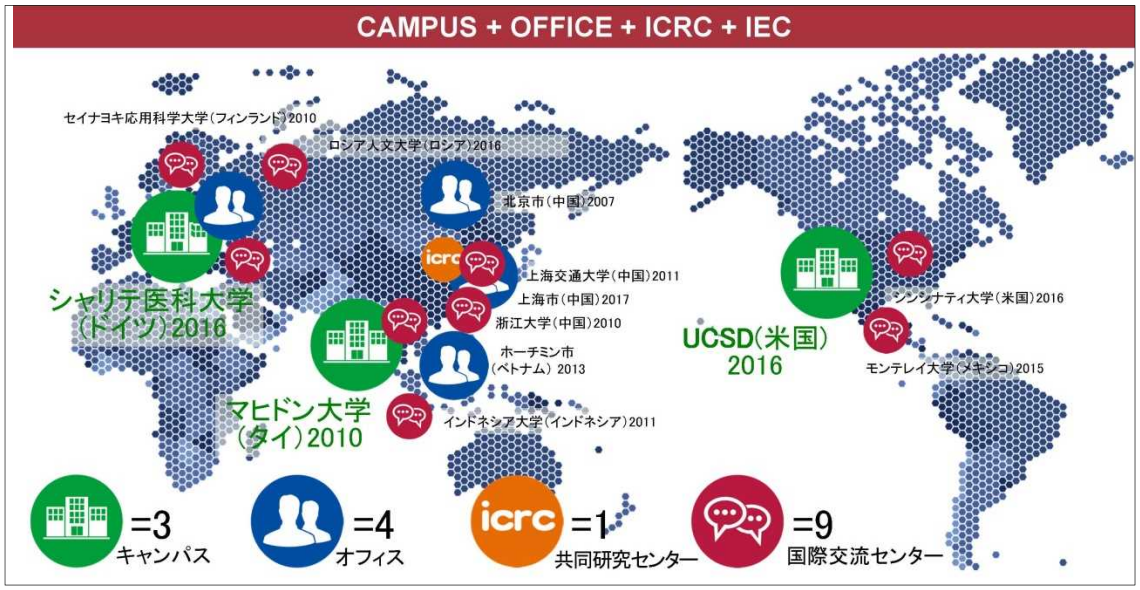
〇戦略的海外拠点形成

・海外 17 の全ての拠点をマネジメントすることを目的とした学長直轄の運営組織、「グローバル・キャンパス推進基幹」を 2018 年度に創設。学長の強いリーダーシップの下で本学のグローバル戦略に基づき海外拠点を管理・利活用する体制を構築。（関連する中期計画４－１－１－１）

・2016 年度に、カリフォルニア大学サンディエゴ校と共同して「国際粘膜免疫・アレルギー治療学研究拠点」を整備。また、シャリテ・ベルリン医科大学内に千葉大学ベルリンキャンパスを設置。（関連する中期計画４－１－１－４）

・2017 年度に、タイ・バンコクキャンパスに設置した千葉大学バンコク・キャンパスを「アジア＋アセアン・イノベーション創成拠点」として整備。タイ・アセアンの大学との強力なネットワークを構築し文理融合の多様な教育プログラムを実施するとともに、本学の強みを生かした社会実装型研究を展開することにより、全学の教育研究のグローバル化を牽引。（関連する中期計画４－１－１－４）

図表５　千葉大学の機能別グローバル拠点



（出典：千葉大学グローバル人材育成“ENGINE” 2018 年度）

３．教育

○千葉大学グローバル人材育成“ENGINE”の策定

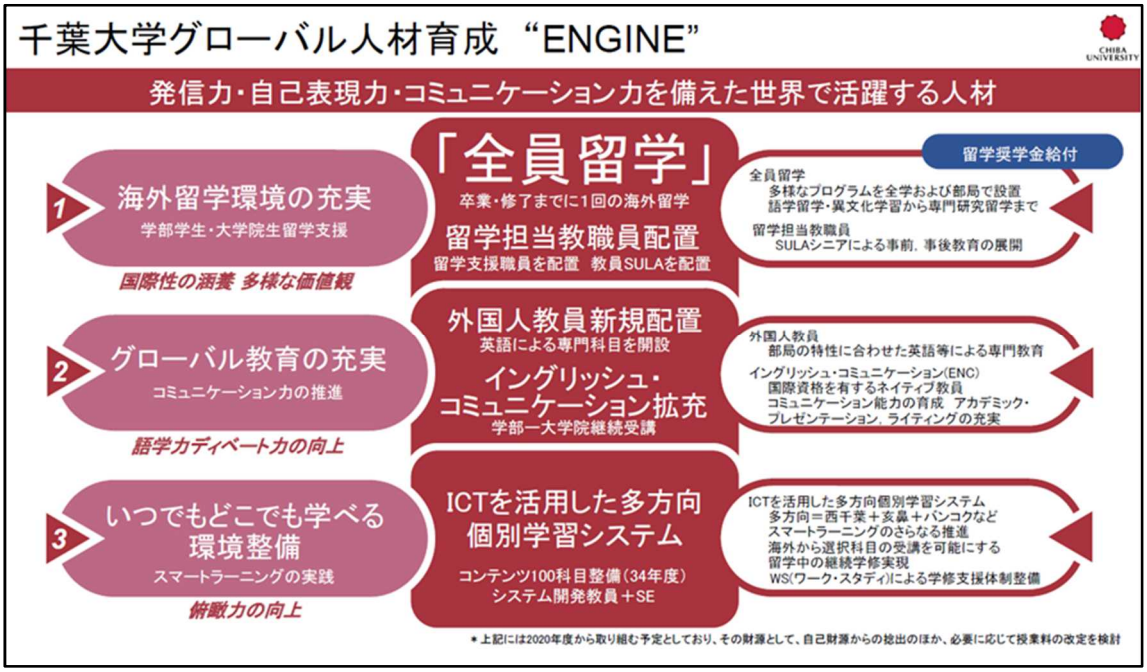
・国際教養学部を中心に成果を上げてきているグローバル人材育成戦略を更に拡大展開するプランとして、「千葉大学グローバル人材育成“ENGINE”」を策定。

・2020 年度から新たに実施することを決定。（関連する中期計画１－３－１－４、４－１－１－１、４－１－１－４）

・本プランでは、“学部・大学院生の全員留学”を目指して、留学プログラムや留学支援体制を強化。（関連する中期計画４－１－１－４）

・また、外国人教員の増員等による教育改革や留学中でも科目履修が継続出来る教育環境を整備。（関連する中期計画１－３－１－４）

図表６　千葉大学グローバル人材育成“ENGINE”抜粋



（出典：千葉大学グローバル人材育成“ENGINE”　2018 年度）

【別添資料１－１　千葉大学グローバル人材育成“ENGINE”パンフレット】

○国際未来教育基幹

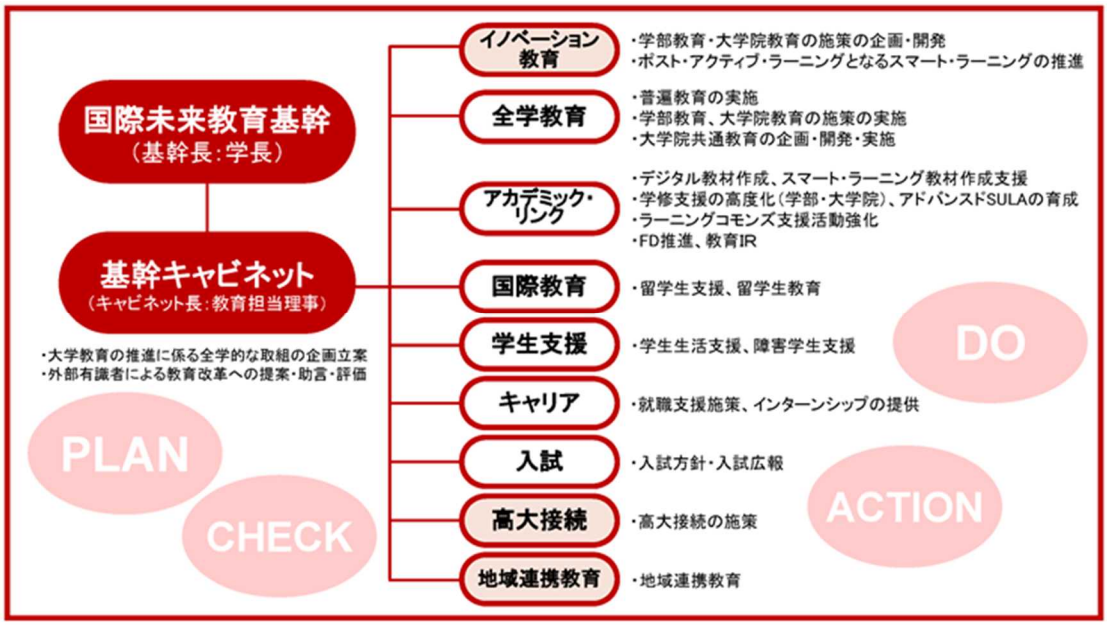
・世界水準の教育実践と次世代型人材の育成を推進する組織として、全学の教育機能の強化を図るとともに、学修・学生支援を実施することを目的とする「国際未来教育基幹」（基幹長：学長）を 2016 年度に設置。（関連する中期計画１－１－３－１）

・本基幹を実質的に機能させるため、教育改革及び先導的プログラムに関する提案、助言及び評価を実施し、教育のグローバルスタンダードへの対応を推進させる仕組みとして、海外の高等教育事情や先進的な教育実践に精通している人材（外部有識者）を構成員に加えた「国際未来教育基幹キャビネット」を設置。（関連する中期計画１－１－３－１）

・同キャビネットから提案された教育改革等について、イノベーション教育センターをはじめ、９つのセンターにおいて取り組み、同キャビネットにおいて、各センターの取組に対する評価を行うことで、「PDCA サイクル」を構築し、教育改善を自律的・継続的に実施。（関連する中期計画１－１－３－１）

・「法人の特徴」で前述した「普遍教育」について、「全学出動体制」のもと、2016 年度から、国際未来教育基幹　全学教育センターが企画・運営・評価の中心となり、学部教育委員会等を通じて実施。（関連する中期計画１－１－３－１）

図表７　国際未来教育基幹



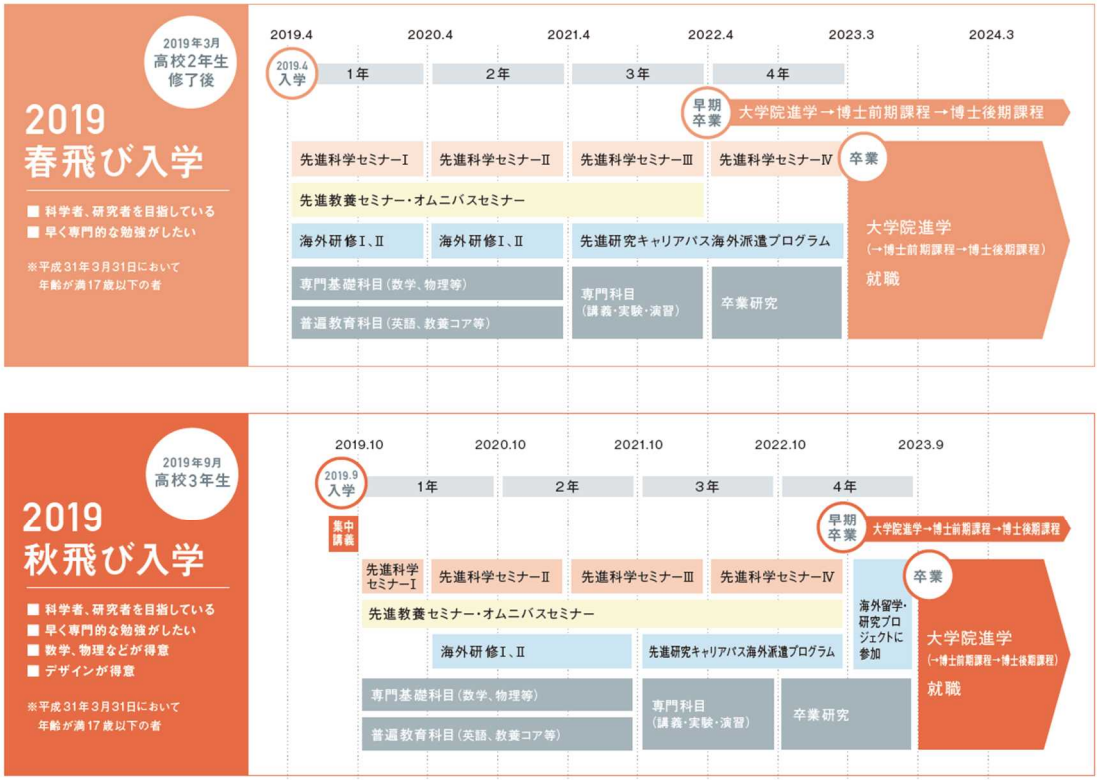
（出典：平成 29 事業年度に係る業務の実績に関する報告書　2018 年度）

○飛び入学制度（先進科学プログラム）

・高校２年修了後、通常より１年早く大学に入学可能な飛び入学制度（先進科学プログラム）は、1998 年から始まり、現在、理学部の物理学科・化学科・生物学科、工学部ではすべてのコース、園芸学部では応用生命化学科、文学部では人文学科行動科学コースの４学部のコース等で受け入れを実施。（関連する中期計画１－４－１－４、４－１－１－２）

・2020 年３月までに 79 人が卒業。研究分野では、大学教員（東大１人、千葉大１人、筑波大１人、インディアナ大１人、大阪大１人、京都大１人）、大学等の博士研究員（２人）、公的研究機関研究員（１人）、民間研究機関研究員（４人）が最先端の研究分野で活躍。また、多様な民間企業（44 人）や官公庁等（７人）への就職、ベンチャービジネスを起業するなど、さまざまな職種で活躍。2018 年６月に「千葉大学先進科学センター創立 20 周年記念シンポジウム」を開催し、飛び入学生募集開始から 20 年間の成果について報告。（関連する中期計画１－４－１－４、４－１－１－２）

図表８　飛び入学制度（先進科学プログラム）



（出典：千葉大学先進科学センターウェブサイト　2019 年度）

〇学生主体による環境活動

・本学は、2005 年に環境マネジメントの国際規格 ISO14001、2013 年に国内大学初のエネルギーマネジメント ISO50001 を取得。2019 年度から ISO50001 は自己宣言という形に移行し、ISO14001 の枠組みの中で、これまでと変わらないエネルギーマネジメントシステムを運用。（関連する中期計画１－１－１－１、１－１－４－２）

・そのマネジメントの運用を約 200 名の学生団体「環境 ISO 学生委員会」が主体的に実施。また、学生委員会は普遍教育科目「環境マネジメントシステム実習」の科目の履修学生から構成され、当該活動について授業を単位化。（関連する中期計画１－１－１－１、１－１－４－２）

・この学生主体の取組は学内に留まらず、近年は、京葉銀行など複数の民間企業と協同したプロジェクトを展開するとともに、地域や学校現場での環境教育や大規模イベントを開催。その成果を国際会議等で発表。（関連する中期計画１－１－１－１、１－１－４－２）

・一般社団法人地球温暖化防止全国ネットが主催する国の市民・企業・学校・自治体等の多様な主体が取り組む、地域や団体の特性に応じた個性的な温暖化防止の活動を対象とした「低炭素杯 2018 優良賞」を受賞。（関連する中期計画１－１－１－１、１－１－４－２）

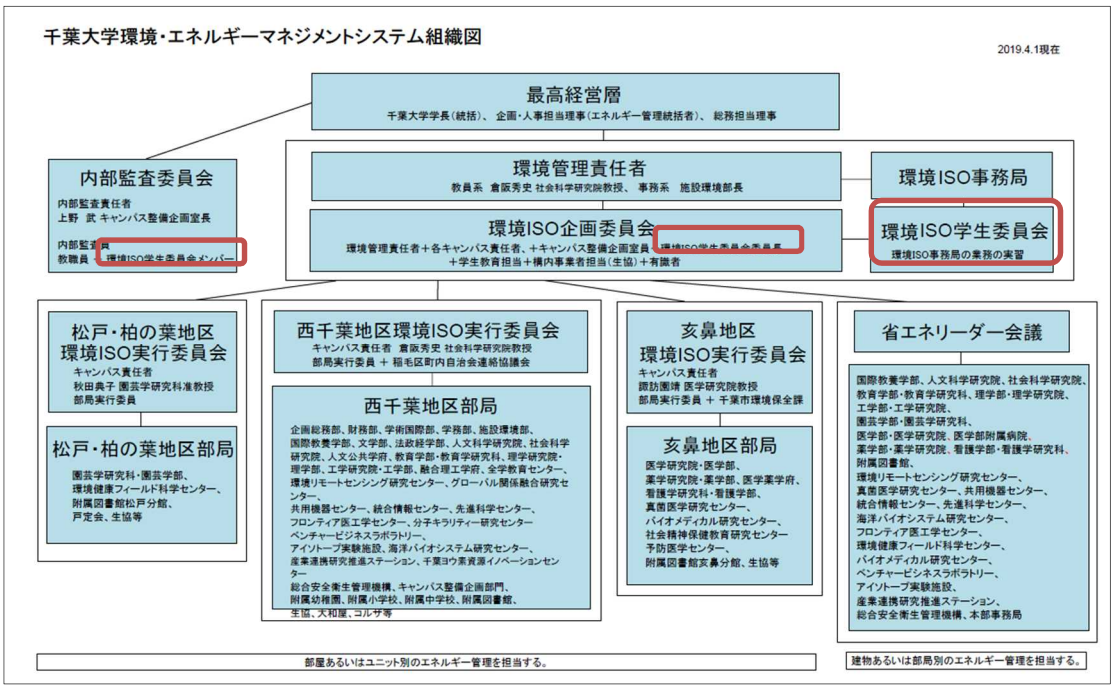
・リーダーシップ、創造性、有効性、優れたパフォーマンスが認められる持続可能なキャンパスプロジェクトを表彰する制度である「ISCN Awards」（The International Sustainable Campus Network Sustainable Campus Excellence Awards）における持続可能なキャンパスづくりに貢献した優れた学生プロジェクトに与えられる「Student Leadership 部門」を日本の大学として、本学が初めて受賞。（関連する中期計画１－１－１－１、１－１－４－２）

・国際連合環境計画（UNE）と大学環境協会（EAUC）が主催する大学の優れた持続可能性の取組を表彰する世界的な賞「2017 GUPESGreen Gown Awards」を受賞。（関連する中期計画１－１－１－１、１－１－４－２）

・「International Green Gown Awards2017-2018」コンテストにおける世界で最も深く学生が環境への取り組みに関与する大学として「Student Engagement」部門を受賞。（関連する中期計画１－１－１－１、１－１－４－２）

・環境省による表彰制度である「環境コミュニケーション大賞」の「環境報告書部門」環境配慮促進法特定事業者賞（第 22 回環境コミュニケーション大賞審査委員長賞）を受賞。（関連する中期計画１－１－１－１、１－１－４－２）

図表９　千葉大学環境・エネルギーマネジメントシステム組織図



（出典：千葉大学ウェブサイト　2019 年度）

○スーパーグローバル大学創成支援事業など数々のグローバル人材育成プログラム

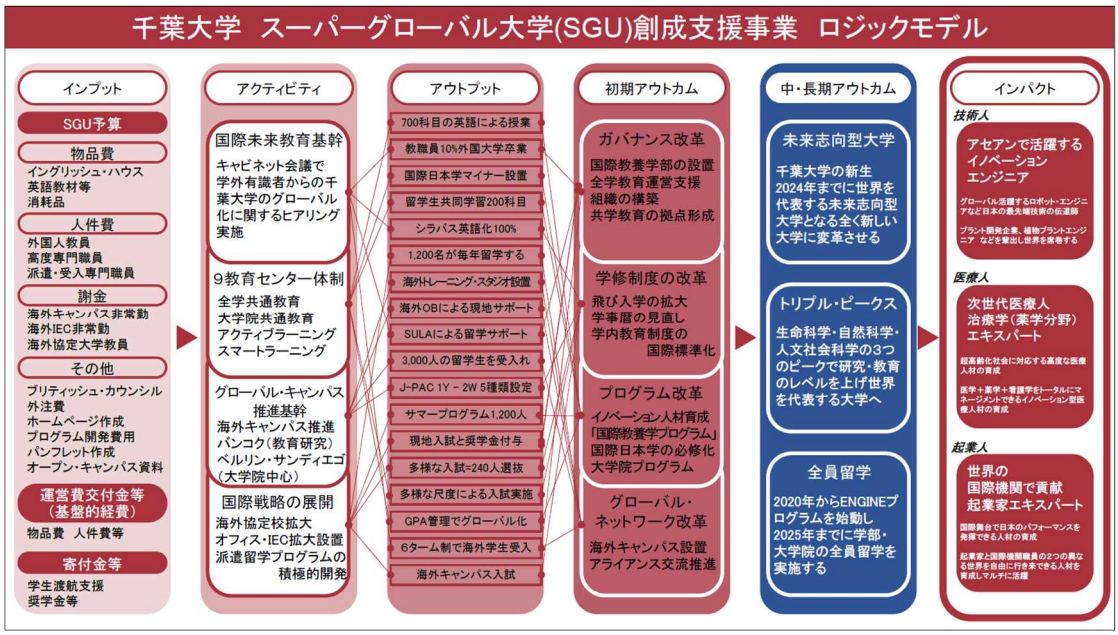
・2012 年度の文部科学省「グローバル人材育成推進事業〔全学推進型〕」の知識準備(Knowledge Reserves)高流動性(High Mobility)型グローバル人財を育成するための画期的な教育システム「スキップワイズ(SKIPWISE)・プログラム」の実績を基に、「グローバル千葉大学の新生－Rising Chiba University－」構想が、2014 年度に「スーパーグローバル大学創成支援（タイプＢ：グローバル化牽引型)」に採択（採択期間：2014 年度～2023 年度)。(関連する中期計画４－１－１－２、４－１－１－３、４－１－１－４、４－１－１－５）

・本事業により、ガバナンス強化、学修制度の改革、プログラム改革、グローバル・ネットワーク改革を通じて、「俯瞰力」、「発見力」、「実践力」を身に付けた「人間力」のあるグローバル人材を育成。(関連する中期計画４－１－１－２、４－１－１－３、４－１－１－４、４－１－１－５）

図表 10　スーパーグローバル大学創成支援事業 概要

（出典：千葉大学ウェブサイト　2019 年度）

図表 11　スーパーグローバル大学創成支援事業　ロジックモデル



（出典：千葉大学ウェブサイト　2019 年度）

・これまでも文部科学省「大学の世界展開力強化事業」等に採択された数々の先導的なグローバル人材育成プログラムを実践。（関連する中期計画１－１－２－１）

・2010 年から現在までで、７つの世界展開力強化事業を獲得。プログラムは全て大学院をメインとした教育・研究プログラムであり、事業採択期間終了後も全て継続的に実施。現在は、４つのプログラムを並行して実施。（関連する中期計画１－１－１－４、１－１－２－２、１－１－４－１、１－１－４－２、１－３－２－２）

図表 12　グローバル人材育成プログラムの概要１

事業名等	実施期間
【事業名】経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成 （旧グローバル人材育成推進事業） 〔プログラム名〕スキップワイズ・プログラム　　主体:全学	2012～2016
【事業名】スーパーグローバル大学創成支援 〔プログラム名〕タイプＢ牽引型　グローバル千葉大学の新生 -Rising Chiba University-　　主体:全学	2014～2023
【事業名】「キャンパス・アジア」中核拠点支援 （日中韓等の大学間交流を通じた高度専門職業人育成事業） 〔プログラム名〕植物環境デザイニングプログラム　　主体:園芸学研究科	2010～2014
【事業名】大学の世界展開力強化事業 （米国大学等との協働教育の創成支援） 〔プログラム名〕大陸間デザイン教育プログラム　　主体:工学研究科	2011～2015
【事業名】大学の世界展開力強化事業 （ASEAN 諸国等との大学間交流形成支援） 〔プログラム名〕ツイン型学生派遣プログラム　主体:教育学部・教育学研究科	2012～2016
【事業名】大学の世界展開力強化事業 （中南米との大学間交流形成支援） 〔プログラム名〕ポスト・アーバン・リビング・イノベーション・プログラム（PULI） 主体:全学	2015～2019
【事業名】大学の世界展開力強化事業 （アジア諸国等との大学間交流の枠組み強化） 〔プログラム名〕植物環境イノベーション・プログラム（CAPE）　主体:全学	2016～2020
【事業名】大学の世界展開力強化事業 （タイプ A:交流推進プログラム（ロシア）） 〔プログラム名〕極東ロシアの未来農業に貢献できる領域横断型人材育成プログラム （FARM）　　主体:全学（環境健康フィールド科学センター）	2017～2021
【事業名】大学の世界展開力強化事業 （～米国等の大学との間で実施する事業～タイプ A:交流推進プログラム） 〔プログラム名〕COIL を使用した日米ユニーク・プログラム（JUCE） 主体:全学（国際教養学部）	2018～2022

（出典：事務局作成資料　2019 年度）

図表 13　グローバル人材育成プログラムの概要２

（出典：千葉大学 大学案内 2019　2019 年度）

○考える学生の創造　―アカデミック・リンク―

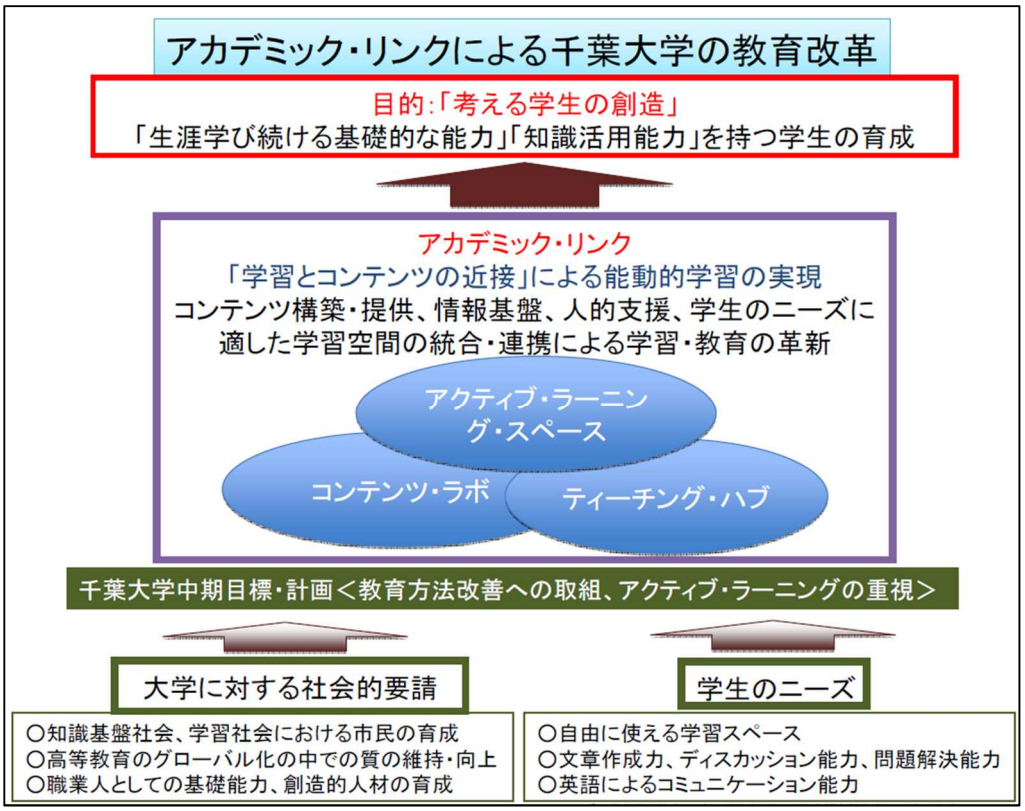
・アカデミック・リンクは、生涯学び続ける基礎的な能力、知識活用能力を持つ「考える学生」を育成する教育・学習のための新しいコンセプト。（関連する中期計画１－２－２－１、１－２－２－２、１－２－３－２）

・アカデミック・リンク・センターは、このコンセプトを実現するための研究開発拠点として、附属図書館本館の整備とともに 2011 年に設置。（関連する中期計画１－２－２－１、１－２－２－２、１－２－３－２）

・アカデミック・リンクは、以下に挙げる３つの機能の実現によって、学習とコンテンツの近接による能動的学修を促進。（関連する中期計画１－２－２－１、１－２－２－２、１－２－３－２）

・これらの実績から、2016 年度に教育関係共同利用拠点「教職員の組織的な研修等の共同利用拠点（教育・学修支援専門職養成）」に再認定。（認定期間：2017 年４月１日～2022 年３月 31 日）（関連する中期計画１－２－２－１、１－２－２－２、１－２－３－２）

図表 14　アカデミック・リンクによる千葉大学の教育改善



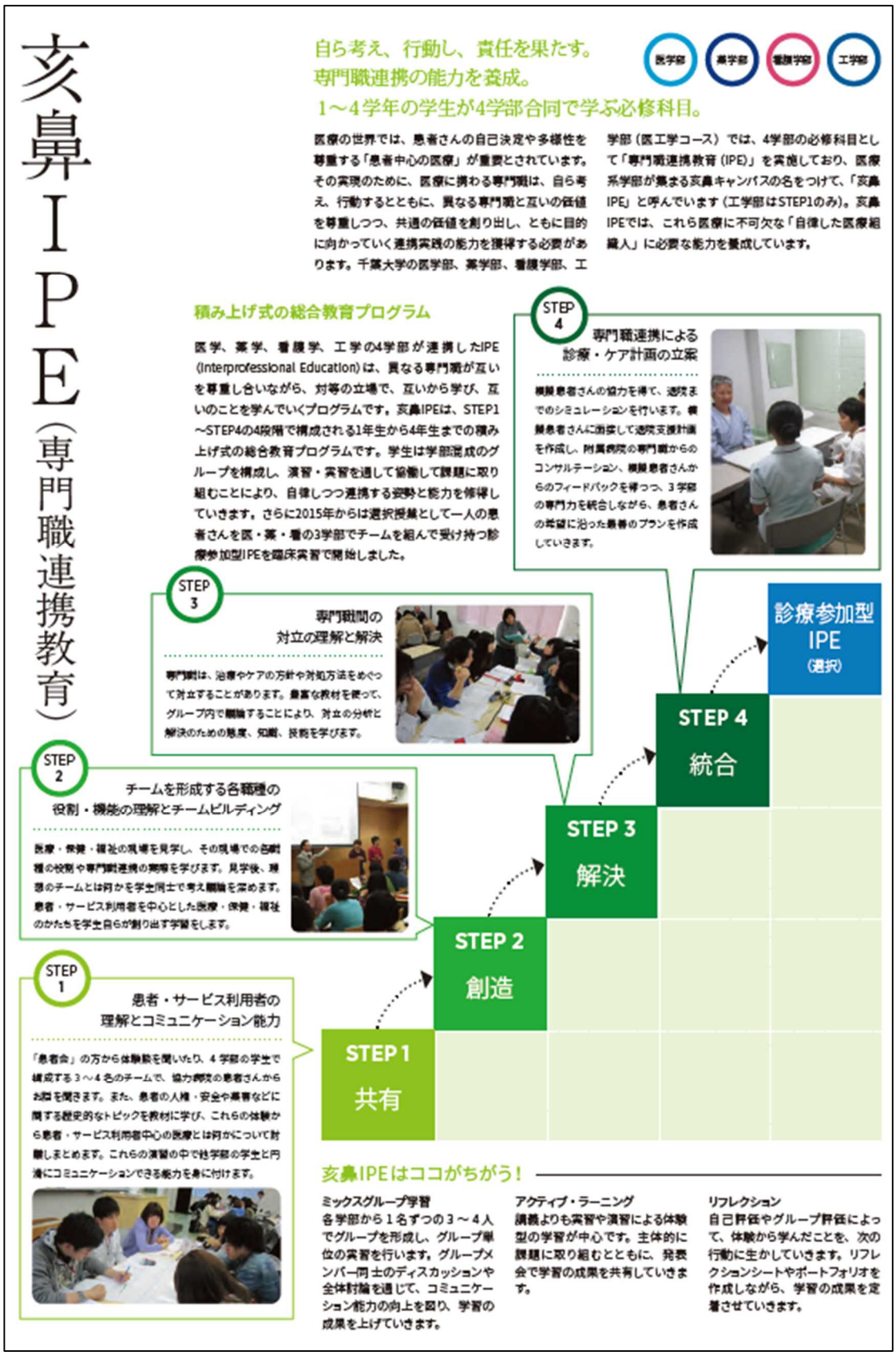
（出典：千葉大学アカデミック・リンク・センターウェブサイト　2019 年度）

○次世代対応型医療人育成

・医療系３学部（医学・薬学・看護学）と附属病院が結集した亥鼻キャンパスの立地を活かし、次世代対応型医療人を育成。

・学士課程においては、医療の場では患者中心のチーム医療が不可欠という観点から、2007 年より、医学部・薬学部・看護学部の３学部による専門職連携教育「亥鼻 IPE」を実施。2017 年度からは工学部医工学コースの学生も一部のプログラムに参加。（関連する中期計画１－１－３－４）

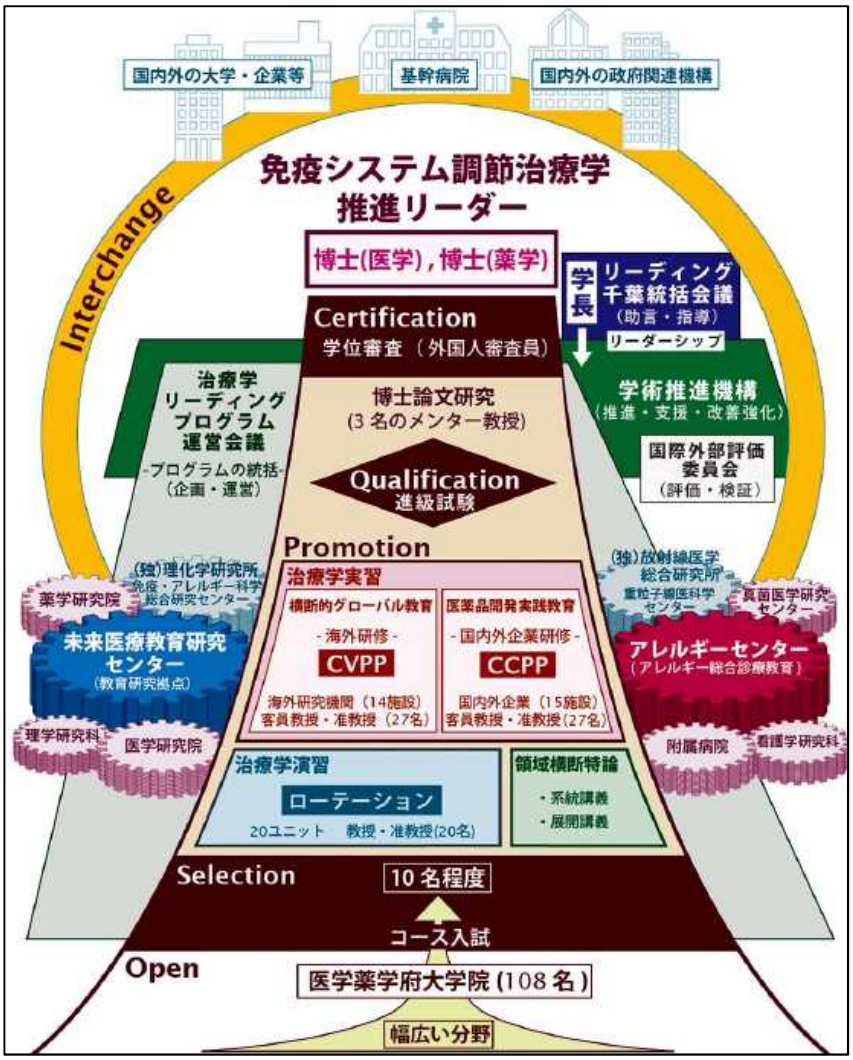
図表 15　亥鼻ＩＰＥの概要



（出典：千葉大学大学案内 2019　2019 年度）

・博士課程における「免疫システム調節治療学推進リーダー養成プログラム」は、医学研究院における難治性免疫関連疾患に関する世界水準の研究基盤を活用し、国内外の専門分野を異にする第一級の研究者や世界最先端の研究機関をはじめとした産学官との連携により、グローバル社会で活躍する難治性の免疫関連疾患に特化した「治療学」の実践的な推進リーダーを養成。（関連する中期計画１－１－２－２）

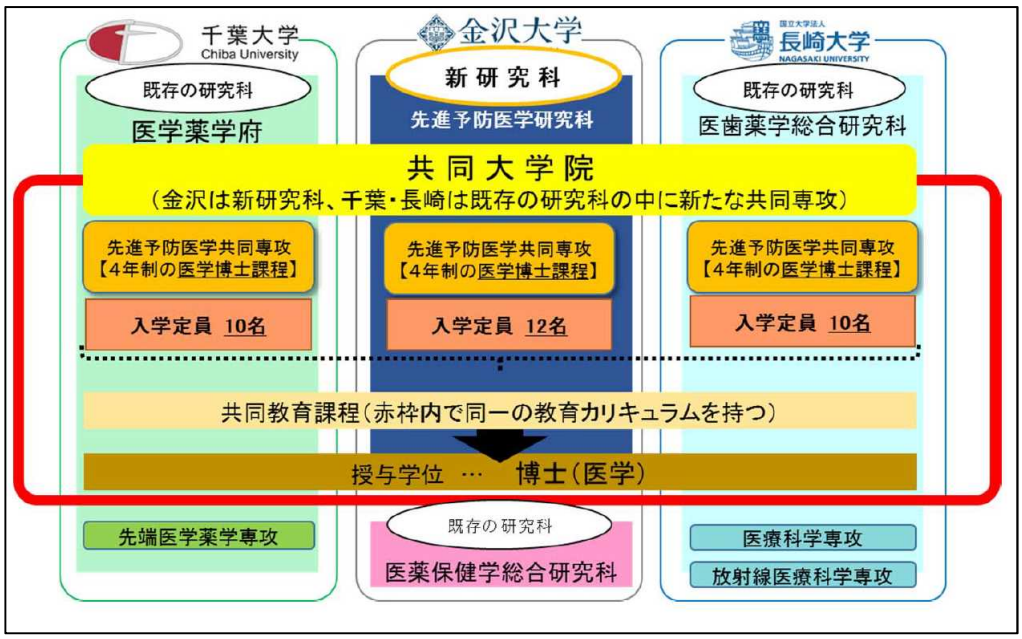
図表 16　免疫システム調節治療学推進リーダー養成プログラムの概要



（出典：免疫システム調節治療学推進リーダー養成プログラム　ウェブサイト　2019 年度）

・2016 年度には千葉大学・金沢大学・長崎大学の３大学による先進予防医学共同大学院を設立。３大学それぞれの強みを組み合わせた同一のカリキュラムを編成することにより、個人や環境の特性を網羅的に分析・評価し、０次予防から３次予防までを包括した「個別化予防」を実現する「先進予防医学」を実践できる専門家の養成を共同で実施。（関連する中期計画１－１－３－４）

図表 17　千葉大学・金沢大学・長崎大学の３大学による先進予防医学共同大学院の概要

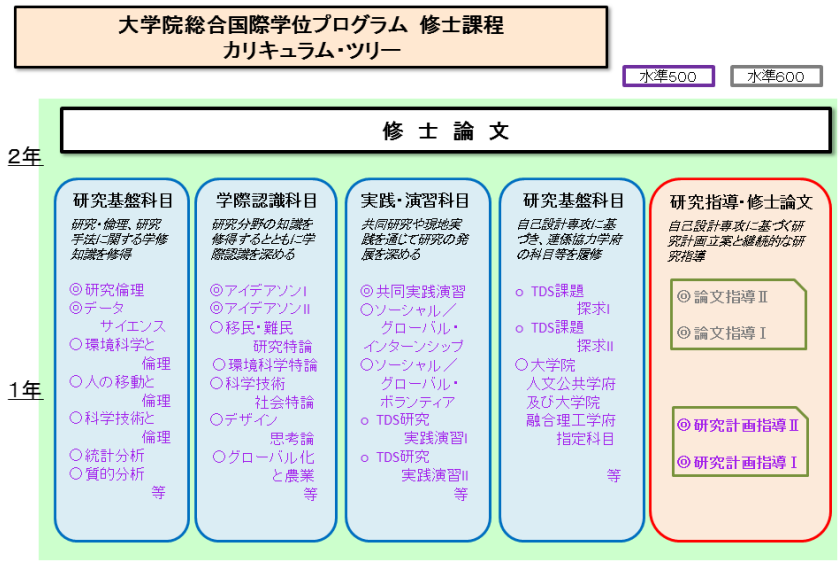


（出典：設置計画の概要　2015 年度）

○大学院総合国際学位プログラムの設置

・2016 年度に文理混合教育による課題解決型教育を実践する国際教養学部を設置。融合型の大学院教育組織として、2001 年度に医学薬学府、2017 年度に融合理工学府及び人文公共学府を設置。これらの組織をベースに、2020 年度には人文社会科学・自然科学・生命科学の諸領域を融合的に学ぶ「大学院総合国際学位プログラム」の設置を決定。（関連する中期計画１－１－２－１）

図表 18 大学院総合国際学位プログラム概要

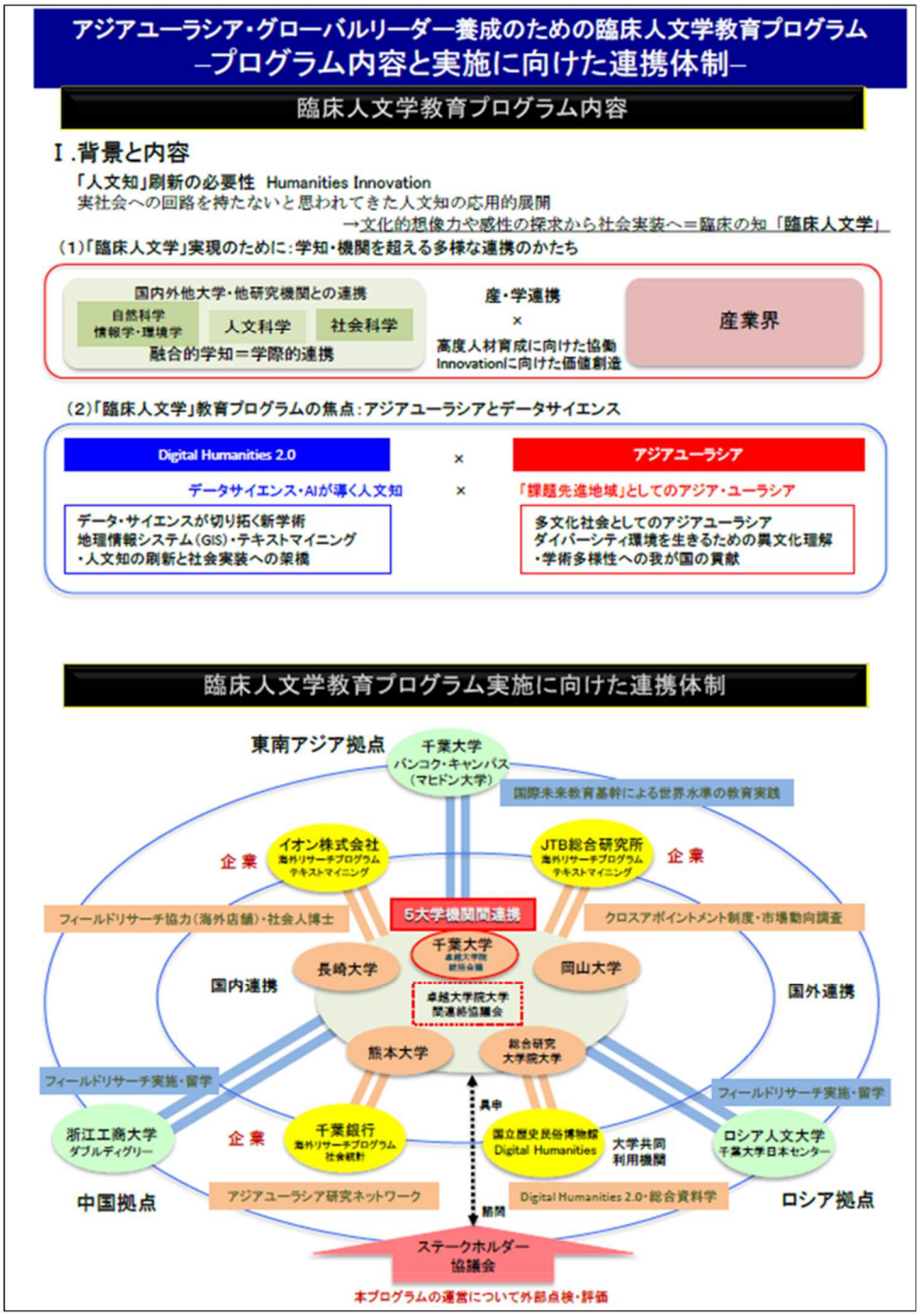


（出典：千葉大学ウェブサイト　2020 年度）

○世界最高水準の教育力・研究力を結集した博士課程の構築

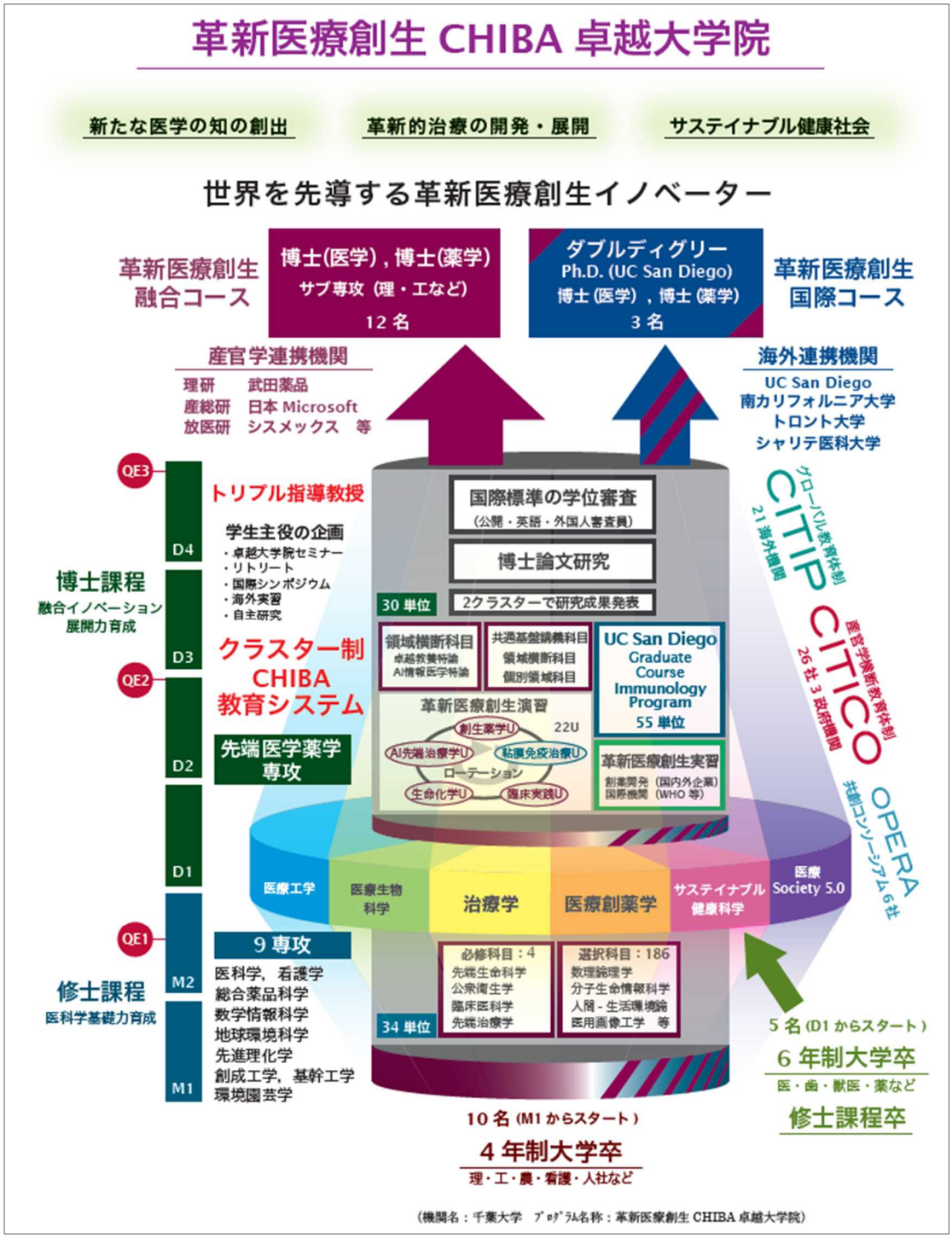
・全学の大学院改革実現に向け、2019 年度に採択された卓越大学院プログラムである「アジアユーラシア・グローバルリーダー養成のための臨床人文学教育プログラム」及び「革新医療創生 CHIBA 卓越大学院」において、異分野融合・文理融合型の教育を推進し、学際領域、新領域において高度な「知のプロフェッショナル」を育成。（関連する中期計画１－１－２－２）

図表 19 アジアユーラシア・グローバルリーダー養成のための臨床人文学教育プログラム概要



（出典：千葉大学卓越大学院プログラム「アジアユーラシア・グローバルリーダー養成のための臨床人文学教育プログラム」　2019 年度）

図表 20　革新医療創生 CHIBA 卓越大学院概要



（出典：千葉大学卓越大学院プログラム「革新医療創生 CHIBA 卓越大学院」　2019 年度）

４．社会貢献

〇地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC＋）

・「2013 年度地（知）の拠点整備事業（大学 COC 事業)」に採択された「クリエイティブ・コミュニティ創成拠点・千葉大学」の実績を基に、2015 年度には「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+)」に「都市と世界をつなぐ千葉地方圏の“しごと”づくり人材育成事業」が採択。(関連する中期計画１－１－３－２、３－１－１－１）

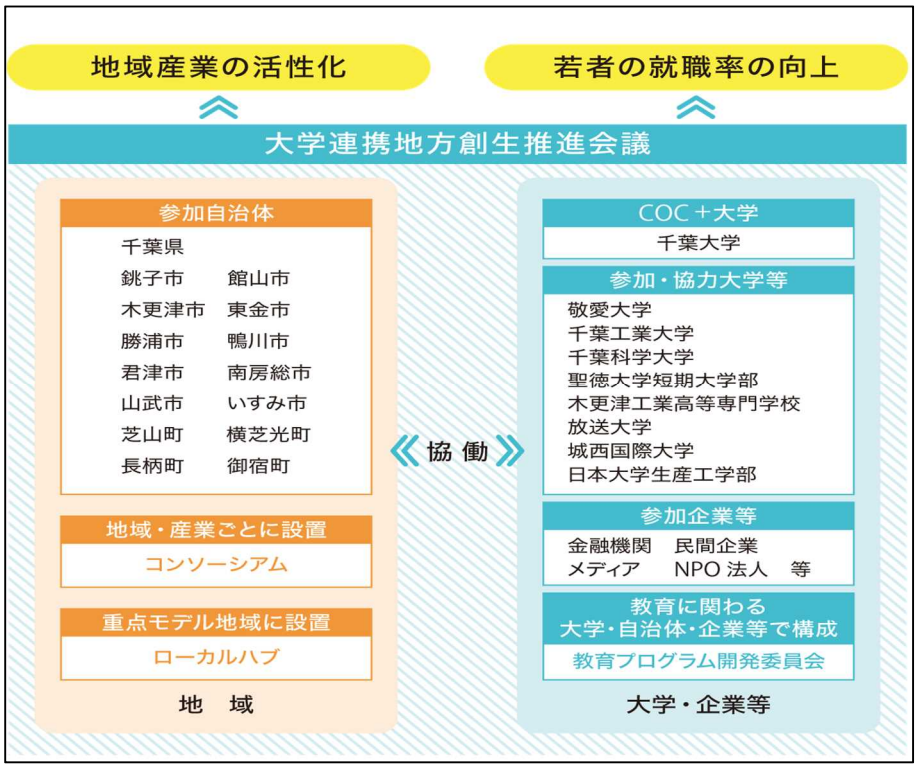
・千葉県のうち若者の人口流出している地域を「千葉地方圏（事業協同地域)」とし、千葉大学、参加大学、協力校、地方公共団体、地元企業、NPO 等が協働。(関連する中期計画３－１－１－１、３－１－２－１）

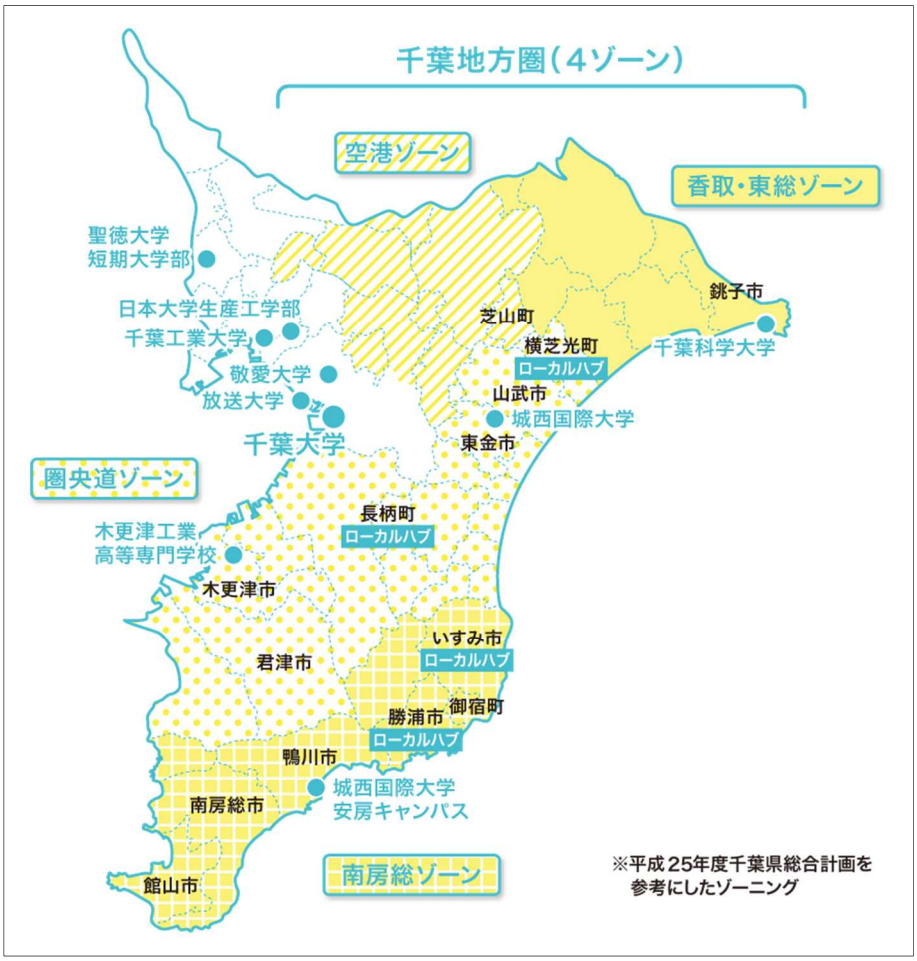
・「千葉地方圏」の地域産業である農林水産、観光、メディカル連携等の分野に多い共同研究、技術移転により産業振興を図るとともに、そのイノベーションを進める人材育成を推進。(関連する中期計画３－１－１－１）

・2016 年度より全学共通教育プログラム「地域産業イノベーション学」を開始。グローバルな視点で地域産業をイノベーションする専門能力を有する人材を育成。(関連する中期計画１－１－３－２、３－１－１－１）

・2016 年度より全学副専攻「地域産業イノベーション学」を設置し、「地域産業イノベーション学」の修了証書取得要件表で定められている単位を修得した学生に修了証書を発行。

図表 21　都市と世界をつなぐ千葉地方圏の“しごと”づくり人材育成事業 概要





（出典：千葉大学ウェブサイト　2019 年度）

［戦略性が高く意欲的な目標・計画（◆）］

○　「ユニット１　グローバルプロミネント研究基幹による独創的な次世代研究の創出と戦略的推進」

グローバルプロミネント研究基幹（基幹長：学長）を創設することにより、学長の新しいガバナンスを確立し、国際競争力強化のため研究資源の集中的・重点的な投入を行い、本学が有するシーズのうち世界水準で進展が期待できる研究を組織的かつ戦略的に強化する。（関連する中期計画２－１－１－１、２－２－１－１）

○　「ユニット２　国際未来教育基幹の創設による世界水準の教育実践と次世代型人材育成」

国際未来教育基幹（基幹長：学長）を創設することにより、学長の新しいガバナンスを確立し、教育のグローバルスタンダードへの対応を推進して、教育の国際通用性を高め、教育研究組織改革、飛び入学・飛び級制度（先進科学プログラム）やアカデミック・リンク等の機能強化により世界水準の次世代型人材を育成する。（関連する中期計画１－１－３－１、１－１－３－３）

○　「ユニット３　グローバル千葉大学の新生-Rising Chiba University-」

「グローバル千葉大学の新生－Rising Chiba University－」事業により、我が国の社会のグローバル化を牽引するため、学長のリーダーシップの下、学修制度改革、プログラム改革、グローバル・ネットワーク改革及び国際的・実践的な教育を実施する。（関連する中期計画４－１－１－２、４－１－１－３、４－１－１－４、４－１－１－５）

○　「ユニット４　指導的立場に立つグローバル人材を育成する卓越した大学院の形成」

国内外の先端的研究拠点とのネットワークによる人材交流・共同研究のハブ機能を有する卓越した研究拠点を形成・強化するため、学長のリーダーシップにより大学のビジョンに基づき、免疫システム調節治療学をはじめとした本学の強みとなる分野に重点的な全学的支援を行い、大学の枠を超えた世界水準の博士学位プログラムを構築する等して、それぞれの分野における指導的立場に立つグローバル人材を育成する卓越した大学院を形成する。（関連する中期計画２－１－１－１、２－２－１－１）

評価結果

≪概要≫

第３期中期目標期間の教育研究の状況（４年目終了時）について、法人の特徴等を踏まえ評価を行った結果、千葉大学の中期目標（大項目、中項目及び小項目）の達成状況の概要は、以下のとおりである。

＜判定結果の概要＞

中期目標（大項目） 中期目標（中項目）	判定	中期目標（小項目）判定の分布				
		【５】特筆すべき実績を上げている	【４】優れた実績を上げている	【３】進捗している	【２】十分に進捗しているとはいえない	【１】進捗していない
Ⅰ　教育に関する目標	【３】順調に進んでいる					
１　教育内容及び教育の成果等に関する目標	【３】順調に進んでいる			4		
２　教育の実施体制等に関する目標	【３】順調に進んでいる		1	2		
３　学生への支援に関する目標	【３】順調に進んでいる			3		
４　入学者選抜に関する目標	【４】計画以上の進捗状況にある		1			
Ⅱ　研究に関する目標	【４】計画以上の進捗状況にある					
１　研究水準及び研究の成果等に関する目標	【４】計画以上の進捗状況にある		1			
２　研究実施体制等に関する目標	【３】順調に進んでいる			1		
Ⅲ　社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標	【３】順調に進んでいる					
	なし			2		
Ⅳ　その他の目標	【４】計画以上の進捗状況にある					
１　グローバル化に関する目標	【４】計画以上の進捗状況にある		1			

※　大項目「Ⅰ　教育に関する目標」及び「Ⅱ　研究に関する目標」においては、学部・研究科等の現況分析結果による加算・減算を反映している。

≪本文≫

Ⅰ　教育に関する目標（大項目１）

１．　評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

（判断理由）「教育に関する目標」に係る中期目標（中項目）４項目のうち、１項目が「計画以上の進捗状況にある」、３項目が「順調に進んでいる」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果（教育）を加算・減算して総合的に判断した。

２．　中期目標の達成状況

（１）　教育内容及び教育の成果等に関する目標（中項目 1-1）

【評価結果】中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

（判断理由）「教育内容及び教育の成果等に関する目標」に係る中期目標（小項目）４項目のうち、４項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

<table>
<tr><th>小項目 1-1-1</th><th colspan="2">判定</th><th>判断理由</th></tr>
<tr><td rowspan="3">学士課程教育においては、ミッションの再定義で明らかになった人材、自己を知り、他人を思いやる心を持ち、問題の本質に迫ることのできる人材、グローバルな視野を持ち世界をリードする人材、イノベーション創出及びサステナブル社会形成に貢献できる人材の育成を目指す。</td><td>【３】</td><td>中期目標の達成に向けて進捗している</td><td>○　中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。</td></tr>
<tr><td colspan="3">≪特記事項≫</td></tr>
<tr><td colspan="3">（優れた点）
○　環境教育の高評価
普遍教育科目「環境マネジメントシステム実習（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）」を１年次から３年次の学生約 200 名が受講している。３年間活動すると「千葉大学環境エネルギーマネジメント実務士」の資格が授与されるなど、サステナブル社会形成に貢献できる人材を輩出している。この学生主体の取組が世界的にも評価され、「国際グリーン・ガウン賞」と ISCN Award を日本で初めて受賞している。このほか、第３期中期目標期間中において数々の賞を受賞している。（中期計画 1-1-1-1）</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td></td><td colspan="3">（特色ある点）
○　アクティブ・ラーニング型科目の推進
　アクティブ・ラーニング型の授業の実態を把握し、今後の拡充を目指した科目の類型を作成している。また、コミュニケーション能力や問題解決能力を高めるため、アクティブ・ラーニング型科目（AL 型科目）の開講を推進している（全授業に対する AL 型科目数割合：平成 28 年度 19.2%、平成 29 年度 22.5%、平成 30 年度 83.3%、令和元年度 81.1%）。（中期計画 1-1-1-3）</td></tr>
<tr><td>小項目 1-1-2</td><td colspan="2">判定</td><td>判断理由</td></tr>
<tr><td rowspan="3">　大学院課程教育においては、ミッションの再定義で明らかになった能力及び高度な専門的知識・能力を持ち、創造性豊かで高い倫理観を持ち、イノベーション創出を担う研究者・高度専門職業人の養成を目指す。
　特に、理工系分野の博士課程においては、俯瞰力と独創力を備え、広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーの育成を目指す。</td><td>【３】</td><td>　中期目標の達成に向けて進捗している</td><td>○　中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。</td></tr>
<tr><td colspan="3">≪特記事項≫</td></tr>
<tr><td colspan="3">（特色ある点）
○　大学院先進科学プログラムの設置
　平成 29 年度に設置した融合理工学府において、先導的若手研究人材を育成する「大学院先進科学プログラム」を新設している。本プログラムの学生は、それぞれの専攻・コースで開講されている授業科目を履修するほか、「先進科学研究実習Ⅰ」、「先進科学特別演習Ⅰ」及び「先進科学セミナーⅠ」の履修を義務付けることにより、産学官に渡りリーダーとしてグローバルに活躍できる人材を育成している。（中期計画 1-1-2-1）</td></tr>
<tr><td>小項目 1-1-3</td><td colspan="2">判定</td><td>判断理由</td></tr>
<tr><td rowspan="3">　学位の国際通用性を高めるため、教育のグローバルスタンダードへの対応を推進し、教育の質的転換を行う。</td><td>【３】</td><td>　中期目標の達成に向けて進捗している</td><td>○　中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。</td></tr>
<tr><td colspan="3">≪特記事項≫</td></tr>
<tr><td colspan="3">（特色ある点）
○　SULA による学修支援
　教員と協力して高度な学修支援・学務指導を行う SULA(Super University Learning Administrator)は、千葉大学独自の取組であり、学生個々の課題設定に応じたテーラーメードの教育を実施している。平成 28 年度に国際教養学</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td></td><td colspan="3">部２名から順次拡大し、令和元年度においては、全学で計37名を配置している。（中期計画1-1-3-3）
○　千葉大学モデルの構築
　中等教育段階においては「飛び入学」（先進科学プログラム）を 平成10年度から実施している。「数理科学コンクール」（22回実施）では物理、数学、情報の問題を中高生に課して、新たな才能を発掘している。さらに次世代スキップアップ・プログラムを平成26年度から実施し、高校生に対して「基礎力養成講座」として大学教養レベルの実施、データサイエンス教育の礎を実施している。今後は、スマートラーニング（ICTを活用した多方向個別学修システム）を活用して数理・データサイエンス科目を提供、アクティブ・ラーニング化を実現し、千葉大学モデルの構築を目指している。（中期計画1-1-3-4）</td></tr>
<tr><th>小項目1-1-4</th><th colspan="2">判定</th><th>判断理由</th></tr>
<tr><td rowspan="3">学生の能動的学習を促す教育を実践し、情報通信技術を応用した教育方法を開発し、充実させる。</td><td>【３】</td><td>中期目標の達成に向けて進捗している</td><td>○　中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。</td></tr>
<tr><td colspan="3">≪特記事項≫</td></tr>
<tr><td colspan="3">（特色ある点）
○　情報通信技術を活用した教育の進展
　学修管理システム（LMS）として、Moodleを継続的に運用し、すでに 2,000以上のコースを設定した教育基盤を構築している。また、情報通信技術を応用した教育方法の開発に向けて、Smart COILを開発し、令和２年度以降に拡大予定としている。（中期計画1-1-4-1）
○　アクティブ・ラーニングの実践
　各学部・研究科（学府）等において「学生の能動的学習を促す教育」としてアクティブ・ラーニングの手法を授業やカリキュラムに取り入れた教育を実践している。例えば、普遍（教養）教育において、「グローバル・ボランティア」、「グローバル・インターンシップ」、「地域活動体験」「地域志向型インターンシップ」「伝統文化をつくる」、「アートをつくる」及び「プレゼンテーション入門：バトルを楽しむ」など、アクティブ・ラーニングの手法を取り入れた科目を展開している。（中期計画1-1-4-1）</td></tr>
</table>

（２）　教育の実施体制等に関する目標（中項目 1-2）

【評価結果】中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

（判断理由）「教育の実施体制等に関する目標」に係る中期目標（小項目）３項目のうち、１項目が「優れた実績を上げている」、２項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 1-2-1	判定		判断理由
教育の実施及び支援を効果的に行うための柔軟かつ多様な教員配置の体制を整備し、教育研究の質を向上させる。	【３】	中期目標の達成に向けて進捗している	○　中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	≪特記事項≫		
	（特色ある点） ○　グローバル人材育成 ENGINE の策定 平成 30 年度に国立総合大学初となる「全員留学」等を柱とした「千葉大学グローバル人材育成“ENGINE”」を策定している。このプランに基づき、令和２年以降に外国人教員の雇用を拡充し、教育研究の質を向上している。（中期計画 1-2-1-1） ○　新型コロナウイルス感染症下の教育 新型コロナウイルス感染症による影響下においても、学生の学習機会を確保するため、次の取組を行っている。①対面授業：受講学生の身体的距離を確保するため、着席できる座席を指定。②実習（歌唱表現）：歌唱時の口元を見るため、フェイスシールドを使用し、教員との間にビニールシートを設置。③図書館：閲覧席の間隔を空け、館内では会話不可とし、入口に手指消毒液を置くなどの感染防止対策を実施。④食堂：座席の間隔を空け、飛沫防止用のパーテーションを立て対面座席を避ける措置。掲示による注意喚起。⑤休養室：学内で感染の疑いがある者が発生した場合に備えて専用の部屋を準備。		

<table>
<tr><th>小項目 1-2-2</th><th colspan="2">判定</th><th>判断理由</th></tr>
<tr><td rowspan="3">快適な学習環境を整備し、教育の効果を高める。</td><td>【３】</td><td>中期目標の達成に向けて進捗している</td><td>○　中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。</td></tr>
<tr><td colspan="3">≪特記事項≫</td></tr>
<tr><td colspan="3">（特色ある点）
○　デジタル・スカラシップの推進
アカデミック・リンク・センターは、最先端の研究成果や研究資源などのデジタルリソースを教育の場に活用して、教育の質的転換を目指す「デジタル・スカラシップ」構築の一環として、国際的デジタルアーカイブ規格・IIIF（トリプル・アイ・エフ）を採用した千葉大学学術リソースコレクション c-arc（Chiba University Academic Resource Collections）を平成 30 年度に公開している。（中期計画 1-2-2-2）</td></tr>
<tr><th>小項目 1-2-3</th><th colspan="2">判定</th><th>判断理由</th></tr>
<tr><td rowspan="3">教育方法の改善、教員の職能開発を推進し、教育の継続的改善を実施する。</td><td>【４】</td><td>中期目標の達成に向けて進捗し、優れた実績を上げている</td><td>○　中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
○　また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「体系的な SD プログラムの実施」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。</td></tr>
<tr><td colspan="3">≪特記事項≫</td></tr>
<tr><td colspan="3">（優れた点）
○　体系的な SD プログラムの実施
平成 29 年度から体系的な SD プログラムとして 15 のテーマからなる履修証明プログラム（ALPS 履修証明プログラム）を開始し、学修支援とアカデミック・アドバイジングのテーマを含む教育・学修支援の専門性を高めるための研修プログラムを提供している。本プログラムは、平成 30 年度に文部科学大臣が大学等における社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムを認定する制度である「職</td></tr>
</table>

	業実践力育成プログラム」（BP）等に認定されている。また、令和元年度には厚生労働大臣が教育訓練給付制度（専門実践教育訓練）に指定している。（中期計画 1-2-3-2） （特色ある点） ○　教育 IR を活用した教育改善 　アカデミック・リンク・センターにおいて、教学上の諸情報の実証的分析及び学生の学修成果のモニタリングを通じた教育 IR の調査分析を実施している。平成 29 年度に学生の学修時間、アクティブ・ラーニング、ナンバリング及び GPCA に関する教育 IR 分析を行い、分析結果について FD を実施している。平成 30 年度にアクティブ・ラーニングを促す授業形態の一つである反転授業の理解を深めるための FD を実施している。令和元年度に FD の事業計画を策定し、各部局に対し「学生の学修時間の向上に資する FD」を実施している。（中期計画 1-2-3-1）

（３）　学生への支援に関する目標（中項目 1-3）

【評価結果】中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

（判断理由）「学生への支援に関する目標」に係る中期目標（小項目）３項目のうち、３項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 1-3-1	判定		判断理由
学生の修学、生活、進路等に関わる相談、支援をきめ細かに実施できる体制を充実し、安全かつ健やかで豊かな学生生活の実現を支援する。	【３】	中期目標の達成に向けて進捗している	○　中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	≪特記事項≫		
	（特色ある点） ○　学修・生活支援の充実 　学生からの問合せ対応、障がい学生支援、教員との協働による履修指導及び留学ガイダンスや危機管理講習の開催等留学に係る支援等の活動を各部署において実施している。特に、国際教養学部においては、定期的にオフィスアワーを設定し、学生が相談しやすい環境を整えるほか、SULA の業務補助を学生が行っている。また、学生学修相談員制度 Student SULA を試行的に実施し、ピアサポートによる学生目線の支援ができる体制を構築している。（中期計画 1-3-1-2）		

<table>
<tr><th>小項目 1-3-2</th><th colspan="2">判定</th><th>判断理由</th></tr>
<tr><td rowspan="3">学業と実践との調和ある教育により、学生の高い就業意識を育成するとともに、就職相談、就職指導等の支援を推進し、学生の主体的な進路選択によるキャリア設計を支援する。</td><td>【３】</td><td>中期目標の達成に向けて進捗している</td><td>○　中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。</td></tr>
<tr><td colspan="3">≪特記事項≫</td></tr>
<tr><td colspan="3">（特色ある点）
○　SULA による学生支援・学修支援
SULA を平成 28 年度に国際教養学部２名から順次拡大し、令和元年度においては、全学に計 37 名を配置している。現在はオフィスアワーの開設、留学ガイダンスや危機管理講習の開催等の留学支援を実施している。令和元年度に SULA 支援事務室を設置し、SULA の育成、支援及び組織化に向けた検討を行う全学的体制を強化している。全学的な SULA のネットワークを構築することで、情報共有に留まらず各 SULA の持つ強みを相互に発揮し、チームとして学生支援・学修支援を向上させるための枠組みを形成している。国際教養学部 SULA のオフィスアワーを全職員に向けて公開するなど、各部局等での学生支援・学修支援の充実につながる機会を提供している。（中期計画 1-3-2-1）
○　SULA サーティフィケートコースの構築
教育関係共同利用拠点として、文部科学省より平成 30 年度「職業実践力育成プログラム」（BP）の認定を受けた「アカデミック・リンク教育・学修支援専門職養成プログラム」による履修証明プログラムを受講する SULA サーティフィケートコースを構築している。（中期計画 1-3-2-1）</td></tr>
<tr><th>小項目 1-3-3</th><th colspan="2">判定</th><th>判断理由</th></tr>
<tr><td rowspan="3">外国人留学生の生活と学習を支援するために、施設整備を進め、相談体制、支援内容を充実させるとともに、留学する日本人学生への支援を充実させる。</td><td>【３】</td><td>中期目標の達成に向けて進捗している</td><td>○　中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。</td></tr>
<tr><td colspan="3">≪特記事項≫</td></tr>
<tr><td colspan="3">該当なし</td></tr>
</table>

（４）　入学者選抜に関する目標（中項目 1-4）

【評価結果】中期目標の達成に向けて計画以上の進捗状況にある

（判断理由）「入学者選抜に関する目標」に係る中期目標（小項目）が１項目であり、当該小項目が「優れた実績を上げている」であることから、これらを総合的に判断した。

小項目 1-4-1	判定		判断理由
入学に際して習得しておくべき内容･水準等を含む入学者受入方針を継続的に見直すとともに関係者に対して明確に示し、これに相応しい入学者選抜方法に改善することにより、意欲的で多様な人材を受け入れる。	【４】	中期目標の達成に向けて進捗し、優れた実績を上げている	○　中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。 ○　また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「知名度向上に向けた入試広報活動の推進」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。
	≪特記事項≫		
	（優れた点） ○　知名度向上に向けた入試広報活動の推進 学長が千葉県下の公立高等学校へ出向いて高校生に大学教育に関する講演を行うなど、ブランド力の確立及び知名度の向上に向けた一体的な広報活動を推進している。これらの成果の一つとして、一般入試における志願者数が、平成 28 年度から５年連続で国立大学１位となっている。（中期計画 1-4-1-3） ○　次世代才能スキップアッププログラムの実施 優れた能力や資質を持つ若者が、早期から研究の基礎となる学問を学び、将来研究者等になるための先進科学プログラム（飛び入学）について理工系学部を中心に拡大するとともに、高大接続システム改革と連動させた「次世代才能スキップアップ」プログラムを実施している。本プログラムは、大学・高校・教育委員会がコンソーシアムを構築し、取り組んでいる。（中期計画 1-4-1-3）		

Ⅱ　研究に関する目標（大項目２）

１．　評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標の達成に向けて計画以上の進捗状況にある

（判断理由）「研究に関する目標」に係る中期目標（中項目）２項目のうち、１項目が「計画以上の進捗状況にある」、１項目が「順調に進んでいる」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果（研究）を加算・減算して総合的に判断した。

２．　中期目標の達成状況

（１）　研究水準及び研究の成果等に関する目標（中項目 2-1）

【評価結果】中期目標の達成に向けて計画以上の進捗状況にある

（判断理由）「研究水準及び研究の成果等に関する目標」に係る中期目標（小項目）が１項目であり、当該小項目が「優れた実績を上げている」であることから、これらを総合的に判断した。

<table>
<tr><th>小項目 2-1-1</th><th colspan="2">判定</th><th>判断理由</th></tr>
<tr><td rowspan="3">基礎から応用に渡る先駆的・先端的研究及び融合型研究を推進し、国際的に高く評価される成果、世界・日本・地域に貢献可能なイノベーション創出に資する成果を生み出すことにより国内外の牽引役としての役割を果たす。
特色ある研究分野を戦略的に強化し、国際的に卓越した研究拠点を形成する。また、得られた研究成果の体系的な発信等により、産業・地域等への成果の還元を拡充する。</td><td>【４】</td><td>中期目標の達成に向けて進捗し、優れた実績を上げている</td><td>○　中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
○　また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「グローバルプロミネント研究基幹の設置」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。</td></tr>
<tr><td colspan="3">≪特記事項≫</td></tr>
<tr><td colspan="3">（優れた点）
○　グローバルプロミネント研究基幹の設置
平成 28 年度にグローバルプロミネント研究基幹を設置している。学長（基幹長）のリーダーシップの下に、学内研究資源を集約し、研究戦略を推進し、さらに、戦略的・重点的推進研究分野等において、国際共同ニュートリノ観測装置 IceCube 実験をはじめとした研究成果等について国際的に高</td></tr>
</table>

	い評価を得ている。（中期計画 2-1-1-1） ○　リモートセンシングの研究成果 　リモートセンシング研究に係る共同利用・共同研究を国内外の研究機関と協働の下強化し、グローバル環境・地殻変動観測用の世界最小・最軽量 100 kg級小型衛星・円偏波合成開口レーダの開発や平成 27 年の東アジア域における大気中の二酸化窒素による汚染レベルが５年前のレベルに回復・改善していることを世界で初めて明らかにするなどの研究成果を創出している。（中期計画 2-1-1-2） （特色ある点） ○　国際共同研究の推進 　国際共同研究の推進により、全学における国際共著論文比率（過去５年平均）は、平成 27 年の 26.4%から平成 30 年の 29.2%と上昇している。また、グローバルプロミネント研究基幹において、特色ある研究分野を戦略的に強化した結果、Web of Science による論文数は、平成 27 年の 1,745 件から令和元年の 1,915 件と増加している。（中期計画 2-1-1-1） ○　応用研究分野の推進 　先導的骨伝導コミュニケーションプロジェクトにおいて、先進的骨伝導技術を基盤としたコミュニケーション促進機器の研究開発を開始した。オムロン株式会社、Samsung Electronics Co., Ltd.（韓国）などと連携し、骨伝導スマートホンや新型コミュニケーション・デバイスの開発や、関連する工業規格の策定を目指した活動を実施している。また、リオン株式会社及び奈良県立医科大学との連携により、既に実用化した軟骨伝導補聴器の改良とアメリカ食品医薬品局認証に向けた活動を推進している。（中期計画 2-1-1-4） ○　共同研究・受託研究の支援 　企業との共同研究に向けた課題解決等を支援することを目的とした「千葉大学産業連携共同研究創出支援プログラム」に基づく支援等により、全学における共同研究が平成 27 年度の 351 件から令和元年度は 418 件、受託研究が平成 27 年度の 297 件から令和元年度 358 件と増加している。（中期計画 2-1-1-5） ○　新型コロナウイルス感染症に係る研究 　千葉大学大学院医学研究院と千葉大学医学部附属病院は、新型コロナウイルス感染症の患者を対象とした臨床研究を開始したと令和２年８月 28 日の記者会見にて発表している。

	本臨床研究の目的は、患者から採取した血液を調べることにより、新型コロナウイルス感染症の重症化を予測するシステムを開発することであり、重症化予測の新たなマーカー（指標）が明らかになれば、患者は今までより早期に適切な医療を受けられることが可能になり、重症化の予防が期待されている。さらに、重症患者数の減少により、医療側の負担を軽減し、医療崩壊を防ぐことも期待されている。

（２）　研究実施体制等に関する目標（中項目 2-2）

【評価結果】中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

（判断理由）「研究実施体制等に関する目標」に係る中期目標（小項目）が１項目であり、当該小項目が「進捗している」であることから、これらを総合的に判断した。

<table>
<tr><th>小項目 2-2-1</th><th colspan="2">判定</th><th>判断理由</th></tr>
<tr><td rowspan="3">ミッションの再定義で明らかになった先端・先駆的分野及び特色ある分野の戦略的な強化を行うため、各種資源（資金、人材、設備、時間等）の戦略的な活用を行うための全学的な研究強化体制を整備する。また、研究の持続的な強化・質の向上のための研究人材の多様性の向上、融合型研究の推進、研究組織の流動性の向上、研究支援人材の確保・育成、適切な研究業績の評価等のためのシステムを整備する。</td><td>【３】</td><td>中期目標の達成に向けて進捗している</td><td>○　中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。</td></tr>
<tr><td colspan="3">≪特記事項≫</td></tr>
<tr><td colspan="3">（特色ある点）
○　大型プロジェクト獲得に向けた支援
健康長寿社会の実現に向けて、予防医学センターが平成 18 年度から取り組んでいる「ケミレスタウンプロジェクト」の発展性に着目し、学内の研究シーズを網羅的に把握している学術研究推進機構産業連携研究推進ステーションの発案により、部局横断的に関連研究を実施している研究者と共同研究等相手方の企業６社を集結させ、社会価値創出を目指すプロジェクト構想を練り上げている。本事業は、国立研究開発法人科学技術振興機構の研究成果展開事業である平成 30 年度産学共創プラットフォーム共同研究推進プログラム（OPERA）の４拠点のうちの１つに採択されている。（中期計画 2-2-1-4）</td></tr>
</table>

Ⅲ　社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育･研究に関する目標（大項目３）

１．　評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

（判断理由）「社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標」に係る中期目標（小項目）２項目のうち、２項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

２．　中期目標の達成状況

<table>
<tr><th>小項目 3-1-1</th><th colspan="2">判定</th><th>判断理由</th></tr>
<tr><td rowspan="3">自治体等地域社会と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究を推進し、学術的な発展に寄与する。</td><td>【３】</td><td>中期目標の達成に向けて進捗している</td><td>○　中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。</td></tr>
<tr><td colspan="3">≪特記事項≫</td></tr>
<tr><td colspan="3">（特色ある点）
○　地域に貢献する教育研究
地域課題を解決する専門職人材を育成する「コミュニティ再生ケア学」（平成 27 年度開始）、地域産業をイノベーションし、グローバルな視点を持つ人材を育成する「地域産業イノベーション学」（平成 28 年度開始）を実施している。平成 28 年度から令和元年度の平均で約 109 名、33 名が各プログラムを受講している。
また、「都市と世界をつなぐ千葉地方圏の“しごと”づくり人材育成事業」では、協力自治体との間で 30 件のプロジェクトが進行しており、一部で商品化されるなど地方創生に貢献している。（中期計画 3-1-1-1）
○　地方創生推進事業（COC＋）の高評価
「クリエイティブ・コミュニティ創成拠点・千葉大学」が「地（知）の拠点整備事業（大学 COC 事業）」の平成 28 年度評価において、地域課題解決に係る人材育成の体制が整備されていることやコミュニティ再生という視点での地域問題分析や研究テーマの選択もバランスを取りつつ実施していること等から、最高評価 S を取得している。（中期計画 3-1-1-1）</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>小項目 3-1-2</th><th colspan="2">判定</th><th>判断理由</th></tr>
<tr><td rowspan="3">先端的教育､研究及び医療の中核機関として、地域社会と連携、協力して、産業、学術、文化及び福祉の一層の発展向上に貢献する。</td><td>【３】</td><td>中期目標の達成に向けて進捗している</td><td>○　中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。</td></tr>
<tr><td colspan="3">≪特記事項≫</td></tr>
<tr><td colspan="3">（特色ある点）
○　地域と連携したプログラムの実施
平成 29 年度から環境 ISO 学生委員会と京葉銀行が実施している共同プロジェクトの環境貢献企画において、学生や地域住民の環境意識を高め、環境ボランティア体験を行う企画を実施している。学生、金融機関、行政、地元事業者など多彩な関係者による生物多様性保全と SDG s の達成に向けた取組を進めている。（中期計画 3-1-2-1）</td></tr>
</table>

Ⅳ　その他の目標（大項目４）

１．　評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標の達成に向けて計画以上の進捗状況にある

（判断理由）「その他の目標」に係る中期目標（中項目）が１項目であり、当該中項目が「計画以上の進捗状況にある」であることから、これらを総合的に判断した。

２．　中期目標の達成状況

（１）　グローバル化に関する目標（中項目 4-1）

【評価結果】中期目標の達成に向けて計画以上の進捗状況にある

（判断理由）「グローバル化に関する目標」に係る中期目標（小項目）が１項目であり、当該小項目が「優れた実績を上げている」であることから、これらを総合的に判断した。

<table>
<tr><th>小項目 4-1-1</th><th colspan="2">判定</th><th>判断理由</th></tr>
<tr><td rowspan="4">新たに創設する国際教養学部の取組を全学に波及させつつ、人間力に富むグローバル人材育成を推進する。国際通用性を意識した教育プログラムの質保証に向けた取組や海外の大学等と連携した教育研究を進めるとともに、国際感覚を涵養するための多様な教育機会を提供し、国際的にも活躍できる人材育成を目指す。また、活発な国際交流を展開して、留学生を受け入れる国際的な高等教育の拠点、国際共同研究の拠点としての責任を果たす。
徹底した「大学改革」と「グローバル化」を全学的に断行することで国際通用</td><td>【４】</td><td>中期目標の達成に向けて進捗し、優れた実績を上げている</td><td>○　中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
○　また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「多様な留学プログラムの実施」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。</td></tr>
<tr><td colspan="3">≪特記事項≫</td></tr>
<tr><td colspan="3">（優れた点）
○　多様な留学プログラムの実施
多様な留学プログラム（例：令和元年度に留学促進のため、「語学・文化体験」、「協働学習」、「社会体験」及び「研究」の４つに大別した留学プログラムを全学募集プログラムとして開発）等により、令和元年度における単位修得を伴う留学を経験した学生数が平成 27 年度の 614 名から、平成 30 年度は 914 名（対平成 27 年度比 67.1%増）と増加して</td></tr>
</table>

性を高め、ひいては国際競争力を強化するとともに、これまでの実績を基に更に先導的試行に挑戦し、我が国の社会のグローバル化を牽引するための取組を進める。	いる。第３期中期目標期間に年間 900 人以上を留学としていた数値目標を３年目で達成している。（中期計画 4-1-1-4） （特色ある点） ○　学生の海外派遣の推進 　海外大学との積極的な協定締結やグローバル化教育の実践の成果の一つとして、平成 21 年度から公表されている独立行政法人日本学生支援機構による「協定等に基づく日本人学生留学状況調査結果」において、協定等に基づく派遣留学生数が毎年度（平成 27 年度～平成 30 年度の期間において）、国立大学上位となっている。（中期計画 4-1-1-4）

≪判定結果一覧表≫

中期目標（大項目） 中期目標（中項目） 中期目標（小項目） 中期計画	判定		下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値
大項目1 **教育に関する目標**	【3】	順調に進んでいる	3.41 うち現況分析結果加算点 0.08
中項目1-1 **教育内容及び教育の成果等に関する目標**	【3】	順調に進んでいる	3.00
小項目1-1-1 学士課程教育においては、ミッションの再定義で明らかになった人材、自己を知り、他人を思いやる心を持ち、問題の本質に迫ることのできる人材、グローバルな視野を持ち世界をリードする人材、イノベーション創出及びサステナブル社会形成に貢献できる人材の育成を目指す。	【3】	進捗している	2.00
中期計画1-1-1-1（★） （No.1）全学的な教育改革方針を策定した上で、学際性・国際性等を涵養する教養教育の方針を明確化し、学際性を有する地域科目2単位と国際性を有する国際日本学2単位を必修科目とする。それとともに、コース・ナンバリングやカリキュラムツリーを利用して、教養教育と専門教育が有機的に統合した体系的な学士課程教育を提供する。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画1-1-1-2 （No.2）それぞれの分野のミッションにおいて定められた人材養成目的を実現するために、教育課程編成・実施の方針を見直しつつ、確かな基盤的能力、専門中核学力を獲得し、専門的知識・技能を修め、創造的思考力を高めることができる学士課程教育を学位授与の方針と授業科目が有機的に統合・可視化されたカリキュラムマップを整備し、提供する。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画1-1-1-3 （No.3）倫理観、コミュニケーション能力や問題解決能力を高めるため、アクティブ・ラーニング型の科目を全学で120科目以上設定し、基礎的・汎用的能力の向上に資する教育活動を実施する。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画1-1-1-4（★）（＊） （No.4）グローバル化に対応し得る資質を養成するために、バランスの取れた外国語コミュニケーション能力の育成を重視する。また、世界の多様な文化への理解を涵養する機会を保証することにより、平成33年度までに留学する学生年間900名を確保する。そのために、学事暦の柔軟化の措置を実施し、海外の高等教育機関との教育交流に向けた体制を整備する。	【2】	中期計画を実施している	
小項目1-1-2 大学院課程教育においては、ミッションの再定義で明らかになった能力及び高度な専門的知識・能力を持ち、創造性豊かで高い倫理観を持ち、イノベーション創出を担う研究者・高度専門職業人の養成を目指す。 特に、理工系分野の博士課程においては、俯瞰力と独創力を備え、広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーの育成を目指す。	【3】	進捗している	2.40
中期計画1-1-2-1（★） （No.5）修士課程（博士前期課程）では、高度専門職業人としての基盤的な学力を充実させるとともに、その基礎の上に、幅広い視野と高度な専門的知識・技能を修得できる教育課程を提供する。また、学内を三領域「生命科学系」、「理工系」、「文系」に大別して、共通教育やチーム教育を実施する。特に理工系では、理学系・工学系・融合科学系が統合した理工統合型の専攻において、イノベーション教育をはじめ、独創的な研究活動に資するための一貫した教育課程を構築する。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
中期計画1-1-2-2（★） （No.6）博士課程（博士後期課程）では、優れた研究者をはじめとする社会の指導的立場に立つ人材を育成するため、多様なキャリアパスに対応した教育課程を提供するとともに、大学の枠を超えた世界水準の学位プログラムを構築する。大学院課程教育においては、ダブル・ディグリー・プログラム、ジョイント・ディグリー・プログラムを拡大し、グローバルな教育課程を提供する。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
中期計画1-1-2-3 （No.7）専門職学位課程では法科大学院において、司法試験の合格状況や入学者選抜状況等を考慮に入れ、学士課程教育との密接な連携による法曹養成教育プログラムの実施や、きめ細やかなケアによる学修支援制度の構築によってより充実した教育活動を行う。 また、教職大学院を設置し、これまでの教職教育とグローバル関連教育プログラムを組み入れた教育課程を提供する。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画1-1-2-4 （No.8）グローバル化に対応し得る資質を養成するために、英語による教育コースを拡充し、20コース以上設置する。また、英語等による授業の実施、異文化理解に関するカリキュラムの充実、海外の高等教育機関との教育交流の推進、学事暦の柔軟化等、必要な措置を実施する。	【2】	中期計画を実施している	

中期目標（大項目） 中期目標（中項目） 中期目標（小項目） 中期計画	判定		下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値
中期計画1-1-2-5 （No.9）大学院課程教育における高度な教養教育の方針を、イノベーションとグローバル化の観点より策定、明確化し、高度教養教育を実施する。	【2】	中期計画を実施している	
小項目1-1-3 学位の国際通用性を高めるため、教育のグローバルスタンダードへの対応を推進し、教育の質的転換を行う。	【3】	進捗している	2.25
中期計画1-1-3-1（★）（◆） （No.10）学位の国際通用性を確保するため、国内外の専門家の意見を取り入れて、教育実践手法の改善を行い、次世代型人材を育成する全学的なマネジメント体制を構築する。 さらに、入学者受入方針、教育課程の編成・実施の方針、学位授与の方針を一体的なものとして継続的に見直す。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画1-1-3-2（★） （No.11）生涯を通じた高度な知識の習得の場となるために、キャリア・マネジメントの概念を全学に導入し、ボランティアやインターンシップ等の社会との接続を意識した教育内容を充実するとともに、学び直しとしての社会人が学習しやすい教育課程や学習環境を整備する。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画1-1-3-3（◆） （No.12）学習指導のエキスパートとなる、SULA（Super University Learning Administrator）を配置・育成し、学生個人の成績データを活用しながら、きめ細かな学生指導を実施する。また、授業別の成績分布を公開・可視化することにより、成績評価の厳格化を進め、単位制度の実質化を推進する。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
中期計画1-1-3-4（★） （No.13）学士課程と修士課程（博士前期課程）・専門職学位課程との接続、学部間、研究科（学府）間の連携を推進する。他大学との連携の強化により、高度で効率的な教育課程を提供する。	【2】	中期計画を実施している	
小項目1-1-4 学生の能動的学習を促す教育を実践し、情報通信技術を応用した教育方法を開発し、充実させる。	【3】	進捗している	2.00
中期計画1-1-4-1（★） （No.14）アクティブ・ラーニングの手法を取り入れた科目やICT利用の教育方法の改善、TA・SAの活用等を通して、学習の双方向性を確保し、主体的な学びに裏打ちされた基礎的・汎用的能力を涵養する。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画1-1-4-2（★） （No.15）プロジェクト・ベースド・ラーニング、インターンシップ、ボランティア、フィールドワーク等、実践的かつ体験型の授業を教養教育において30科目以上設置し、社会に対して能動的に関与するコミュニケーション能力を育成する。	【2】	中期計画を実施している	
中項目1-2 **教育の実施体制等に関する目標**	【3】	順調に進んでいる	3.33
小項目1-2-1 教育の実施及び支援を効果的に行うための柔軟かつ多様な教員配置の体制を整備し、教育研究の質を向上させる。	【3】	進捗している	2.00
中期計画1-2-1-1 （No.16）教育課程のグローバル化に対応し、年俸制等を利用して、外国人教員等を積極的に登用する。また、40歳未満の優秀な若手教員の活躍の場を全学的に拡大し、教育研究を活性化するため、若手教員の雇用に関する計画に基づき、退職金に係る運営費交付金の積算対象となる教員における若手教員の比率を21%以上にするとともに、女性優先公募の実施により女性教員を積極的に登用し、多様な教員配置を実現する。特に女性教員採用比率については、30%程度とする。	【2】	中期計画を実施している	
小項目1-2-2 快適な学習環境を整備し、教育の効果を高める。	【3】	進捗している	2.00
中期計画1-2-2-1（★） （No.17）アクティブ・ラーニングの推進のために、ビデオ学習システムの教材を60プログラム開発するとともに、これらの反転学習の場の環境整備をアカデミック・リンク・センターを中心に推進する。 また、教材作成とともに教育環境の整備を同時に推進する。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画1-2-2-2（★） （No.18）アカデミック・リンク・センター（附属図書館を含む）は、学習上必要な資料の体系的整備を行うとともに、学習に必要な情報提供機能を拡充、強化し、西千葉・亥鼻・松戸の3キャンパスに展開する。	【2】	中期計画を実施している	

中期目標（大項目） 中期目標（中項目） 中期目標（小項目） 中期計画	判定		下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値
中期計画1-2-2-3 （No.19）国の財政措置の状況を踏まえ、自主的学習、情報交換及び課外活動の場として学生が利用できるコミュニケーション・スペースやグループによる自主学習が可能なスペースの設置及び学生寮等の施設を充実させる。	【2】	中期計画を実施している	
小項目1-2-3 教育方法の改善、教員の職能開発を推進し、教育の継続的改善を実施する。	【4】	優れた実績を上げている	2.50
中期計画1-2-3-1 （No.20）教育IRを活用し、全学及び各学部・研究科（学府）におけるコース・ナンバリングを利用したシラバス作成、学事暦の柔軟化及びGPA制度等の実施状況を検証して、組織的な教育改善を継続的に推進するとともに、学生の参画による教育改革体制を構築する。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画1-2-3-2（★） （No.21）学生の主体的な学びを促進するため、学生のニーズやアクティブ・ラーニング化に伴う反転学習の実施のためのFDプログラムを開発、実施し、教員の教育力を高めるとともに、TAの研修を拡充し、将来の教職員候補となりうる「高機能TA」の年間60名の育成等、教育改善を推進する。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
中項目1-3 **学生への支援に関する目標**	【3】	順調に進んでいる	3.00
小項目1-3-1 学生の修学、生活、進路等に関わる相談、支援をきめ細かに実施できる体制を充実し、安全かつ健やかで豊かな学生生活の実現を支援する。	【3】	進捗している	2.40
中期計画1-3-1-1 （No.22）学生の修学、生活、進路等に関するニーズを把握し、相談、支援をきめ細かに実施できる体制を組織し、継続的に推進する。また、カウンセラー組織を強化し、特に心身の健康等にわたる相談支援体制を充実させるとともに、医学、教育学、心理学、脳科学等の学問領域を超えた研究の成果に基づき、WEB問診によるメンタルヘルススクリーニング結果を分析して、心の健康問題に関しての早期発見及び相談による早期介入を行い、学生のメンタルヘルス向上を推進する。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
中期計画1-3-1-2 （No.23）障がいのある学生の支援ニーズを把握し、支援者の確保、施設・機器の整備等、学習・生活に関する支援のあり方を見直しつつ、拡大し支援する。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画1-3-1-3 （No.24）学生へのガイダンス等を通して、交通事故、犯罪被害、宗教を隠した勧誘、不適切な飲酒、インターネットの問題ある利用等への注意喚起を行い、それらへの監視を強化し、抑止する体制を整備する。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画1-3-1-4（★）（＊） （No.25）多くの学生が海外研修等を体験できるよう、多様な海外派遣プランを提供し、参加学生への支援を行うとともに、留学する学生を平成33年度までに年間900名を確保する。また、海外派遣の成果を継続的に検証し、改善する。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
中期計画1-3-1-5 （No.26）外国人留学生を含む学生に対して、授業料免除制度や各種奨学金に関する案内の充実、相談体制の点検と改善、TA・特別RA制度の積極的な活用等を進め、経済的に困窮状態にある学生への支援体制を強化する。	【2】	中期計画を実施している	
小項目1-3-2 学業と実践との調和ある教育により、学生の高い就業意識を育成するとともに、就職相談、就職指導等の支援を推進し、学生の主体的な進路選択によるキャリア設計を支援する。	【3】	進捗している	2.00
中期計画1-3-2-1 （No.27）学生の進路ニーズを踏まえた進路選択を支援するため、進路指導強化と、キャリアサポートとしての就職ガイダンス、就職相談、就職試験対策等の2つに分類し内容を充実させる。進路指導強化は、学習指導のエキスパートとなるSULAを中心に進め、キャリアサポートは、就職支援体制を強化する。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画1-3-2-2（★） （No.28）社会状況の変化に対応して、普遍教育、各学部、研究科(学府)におけるキャリア教育としてのインターンシップやボランティア活動等の新しい実践的体験型教育の実施状況について継続的に検証、改善し、全学的に単位化を行う。	【2】	中期計画を実施している	

中期目標（大項目） 中期目標（中項目） 中期目標（小項目） 中期計画	判定		下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値
小項目1-3-3 外国人留学生の生活と学習を支援するために、施設整備を進め、相談体制、支援内容を充実させるとともに、留学する日本人学生への支援を充実させる。	【3】	進捗している	2.00
中期計画1-3-3-1 （No.29）外国人留学生の多様なニーズに対応できるよう、生活、学習、進学、就職に関する相談支援体制を充実させるとともに、留学する日本人学生への支援を充実させるため、ISD（International Support Desk）の機能を拡充して、亥鼻キャンパス及び松戸キャンパスにも展開する。また、日本語教育、日本文化教育については、ICTの活用及び日本人学生の参加を促進することでアクティブ・ラーニングを一層充実させ、留学生の学習成果の達成度を向上させる。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画1-3-3-2 （No.30）外国人留学生のための施設整備を進め、学習環境、生活環境、健康管理等の面での支援体制を充実させるとともに、日本人との混住型の学生寮を新たに開設し、留学生と日本人学生間の相互文化理解及び国際交流を進展させる。	【2】	中期計画を実施している	
中項目1-4 **入学者選抜に関する目標**	【4】	計画以上の進捗状況にある	4.00
小項目1-4-1 入学に際して習得しておくべき内容・水準等を含む入学者受入方針を継続的に見直すとともに関係者に対して明確に示し、これに相応しい入学者選抜方法に改善することにより、意欲的で多様な人材を受け入れる。	【4】	優れた実績を上げている	2.50
中期計画1-4-1-1 （No.31）各学部、研究科(学府)は、その教育目標に基づき入学者受入方針を継続的に見直し、入学後の教育課程と入学者選抜の評価方法との関係性や求める能力の評価方法を明確化する。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画1-4-1-2 （No.32）入試実施体制の再編成とアドミッションオフィスの設置により、新しい入試システムを構築し、能力・意欲・適性を多面的・総合的に評価・判定するための多様な入試選抜方法を採用する。また、英語の外部試験を入学者選抜に利用する方法を新たに採用する。これまで先進科学プログラムで実施してきた総合評価に基づく選抜方式を礎にこれを全学に展開する。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画1-4-1-3 （No.33）高等学校の関係者等の意見を踏まえ、入試広報活動を改善するとともに、高等学校等のカリキュラム開発支援や高大連携企画事業を通じて意欲的で多様な志願者を確保する。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
中期計画1-4-1-4（★） （No.34）学生の多様なニーズに対応し、グローバル人材育成を進めるため、「飛び入学」制度の充実、秋季入学制度の整備・改善、AO入試を推進するとともに、海外での入試及び国際バカロレアを利用した入試を実施する。特に、理工系や国際教養学部において、高大連携プログラムを活用した接続推薦制度を実施することにより高大連携を推進し、連携する高等学校、SSH校やSGH校から優秀な学生を獲得する。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
大項目2 **研究に関する目標**	【4】	計画以上の進捗状況にある	3.58 うち現況分析結果加算点 0.08
中項目2-1 **研究水準及び研究の成果等に関する目標**	【4】	計画以上の進捗状況にある	4.00
小項目2-1-1 基礎から応用に渡る先駆的・先端的研究及び融合型研究を推進し、国際的に高く評価される成果、世界・日本・地域に貢献可能なイノベーション創出に資する成果を生み出すことにより国内外の牽引役としての役割を果たす。 特色ある研究分野を戦略的に強化し、国際的に卓越した研究拠点を形成する。また、得られた研究成果の体系的な発信等により、産業・地域等への成果の還元を拡充する。	【4】	優れた実績を上げている	2.67
中期計画2-1-1-1（★）（◆） （No.35）免疫システム調節治療学、キラリティー物質科学分野等、先駆的・先端的な世界水準の研究分野への重点的な全学的支援を行うことによって国際的に卓越した研究拠点を形成・強化し、国内外の先端的研究拠点とのネットワークを構築して質の高い論文を増やす等国際的に高く評価される成果を生み出す。さらに研究IRやミッションの再定義等により把握した「強み」となる研究分野についても全学及び各研究科等による強化を行い、これら研究分野において国内外を牽引する。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	

中期目標（大項目） 中期目標（中項目） 中期目標（小項目） 中期計画	判定		下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値
中期計画2-1-1-2 （No.36）環境リモートセンシング研究センターにおいては、国内外の研究機関との共同研究及び学内の関係分野との協働のもとに、リモートセンシング研究を進展させ、地球環境に関する研究を推進し、得られた成果の可視化、評価・分析を行い、アジアにおける国際拠点として、先端的な研究を強化する。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
中期計画2-1-1-3 （No.37）真菌医学研究センターにおいては、国内外の研究機関との連携や全国の医療機関等とのネットワークを最大限に活用し、病原真菌を含む各種病原体の基礎研究及びそれらに起因する感染症に関する新たな予防・診断・治療に関する研究を推進して、得られた成果の可視化、評価・分析を行い、免疫学研究者と協力し我が国の臨床感染症治療研究拠点に発展させる。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
中期計画2-1-1-4 （No.38）免疫システム調節治療学、キラリティー物質科学分野、高度精細局所治療学等の先駆的・先端的研究及び融合型研究を推進し、イノベーション創出に資する成果を生み出す。応用研究分野において、社会のニーズに対応した研究を実施し、その成果を社会に還元する。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
中期計画2-1-1-5 （No.39）「知の拠点」としての研究活動やその成果を、学会発表、論文発表、プレスリリース、ウェブサイト等による公開やデータベース化を通して、広く社会にわかりやすく発信する。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画2-1-1-6 （No.40）研究シーズ情報の学外への発信、産業ニーズとのマッチング、研究成果の特許出願及び特許を活用した産業界との連携等を通して産業連携共同研究を強化するとともに、TLOを活用した技術移転等を促進する。	【2】	中期計画を実施している	
中項目2-2 **研究実施体制等に関する目標**	【3】	順調に進んでいる	3.00
小項目2-2-1 ミッションの再定義で明らかになった先端・先駆的分野及び特色ある分野の戦略的な強化を行うため、各種資源（資金、人材、設備、時間等）の戦略的な活用を行うための全学的な研究強化体制を整備する。また、研究の持続的な強化・質の向上のための研究人材の多様性の向上、融合型研究の推進、研究組織の流動性の向上、研究支援人材の確保・育成、適切な研究業績の評価等のためのシステムを整備する。	【3】	進捗している	2.40
中期計画2-2-1-1（★）（◆） （No.41）免疫システム調節治療学、キラリティー物質科学分野をはじめとする先端・先駆的分野及び特色ある分野の研究を戦略的に強化するため、学長主導の重点研究分野強化システム及び次世代イノベーション育成システムを整備することにより、人材の集中・増強、研究環境の整備・強化等、研究資源の戦略的活用を進める。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
中期計画2-2-1-2 （No.42）全学的な視点からの教員・研究者の配置計画に基づいて、重点分野の研究者を増員する等、教員の適材適所への再配置を促進する。年俸制及びテニュアトラック制等の促進、40歳未満の優秀な若手教員の活躍の場を全学的に拡大し、教育研究を活性化するため、若手教員の雇用に関する計画に基づき、退職金に係る運営費交付金の積算対象となる教員における若手教員の比率を21%以上にするとともに、女性優先公募により、若手、女性、外国人教員等を積極的に採用する。特に女性教員採用比率については、30%程度とする。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画2-2-1-3 （No.43）環境リモートセンシング研究センター、真菌医学研究センター及び共用機器センターを中心として、部局間及び学外機関との研究施設の相互利用を促進する。また、電子ジャーナルをはじめとする研究情報資源を他機関と連携・協力しながら、効率化の観点に基づき整備する。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画2-2-1-4 （No.44）研究支援人材の強化等によりURAシステムを充実し、重点研究、若手研究者育成、産業連携研究等の多様な研究IRを継続実施、大型研究プロジェクト等の獲得に向けた融合研究や先端研究の企画立案に係る調整・支援、フォローアップ、アウトリーチ活動を活発化させる。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
中期計画2-2-1-5 （No.45）産業連携研究IRを通じて、研究成果の産業界における実用可能性等について適切に評価するとともに、学内の研究シーズを発掘し、知財の適切なマネジメントとともに産業ニーズとのマッチングの強化及び産業連携共同研究を充実させ、ベンチャー創出支援等も含めて、研究成果を社会へ還元する体制を整備する。	【2】	中期計画を実施している	

中期目標（大項目） 中期目標（中項目） 中期目標（小項目） 中期計画	判定		下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値
大項目3 **社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標**	【3】	順調に進んでいる	3.00
	なし	－	—
小項目3-1-1 自治体等地域社会と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究を推進し、学術的な発展に寄与する。	【3】	進捗している	2.00
中期計画3-1-1-1（★） （No.46）自治体等地域社会と連携して、地域のニーズと大学のシーズのマッチングを推進するとともに、地域とそのコミュニティの未解決課題の研究を進め、地域を志向した全学共通の教育プログラムを実施することにより、グローバルな視野をもって地域に関わり貢献できる人材、地域課題を解決する専門職を養成する。 また、医学、教育学、心理学、脳科学等の「こころの発達」とメンタルヘルスに関する領域横断的な研究を推進し、地域の医療機関や教育機関に貢献できる人材を養成する。	【2】	中期計画を実施している	
小項目3-1-2 先端的教育、研究及び医療の中核機関として、地域社会と連携、協力して、産業、学術、文化及び福祉の一層の発展向上に貢献する。	【3】	進捗している	2.00
中期計画3-1-2-1（★） （No.47）地方公共団体をはじめとする地域の機関と連携し、生涯学習の支援、小・中・高校生対象の教育プログラム、各種研修会や公開講座、地域連携プロジェクト等を企画・実施して、保健・医療・福祉サービス、環境・エネルギー・防災等の様々な分野や、地域の医療機関や教育機関への心理教育相談や認知行動療法プログラムの提供、性暴力・性犯罪被害者支援教育において地域社会に貢献するとともに、学外機関による研究施設・設備の有効活用を促進する。	【2】	中期計画を実施している	
大項目4 **その他の目標**	【4】	計画以上の進捗状況にある	4.00
中項目4-1 **グローバル化に関する目標**	【4】	計画以上の進捗状況にある	4.00
小項目4-1-1 新たに創設する国際教養学部の取組を全学に波及させつつ、人間力に富むグローバル人材育成を推進する。国際通用性を意識した教育プログラムの質保証に向けた取組や海外の大学等と連携した教育研究を進めるとともに、国際感覚を涵養するための多様な教育機会を提供し、国際的にも活躍できる人材育成を目指す。また、活発な国際交流を展開して、留学生を受け入れる国際的な高等教育の拠点、国際共同研究の拠点としての責任を果たす。 徹底した「大学改革」と「グローバル化」を全学的に断行することで国際通用性を高め、ひいては国際競争力を強化するとともに、これまでの実績を基に更に先導的試行に挑戦し、我が国の社会のグローバル化を牽引するための取組を進める。	【4】	優れた実績を上げている	2.60
中期計画4-1-1-1（★） （No.48）国際戦略本部において、教育・研究・広報にまたがる多様なグローバル戦略を立案するとともに、既存の組織を横断して実行し、研究と教育のグローバル化を表裏一体で推進する。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
中期計画4-1-1-2（★）（◆） （No.49）飛び入学、早期卒業を含めた学修制度の改革、プログラム改革を行い、海外に分校を開学するためのグローバル・ネットワークを構築・展開し、平成33年度までに470科目以上の英語による授業科目を実施する。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
中期計画4-1-1-3（★）（◆）（＊） （No.50）優秀な外国人留学生を組織的に受け入れるためのプログラムを充実させ、その円滑な運用を可能とするための学事暦の柔軟化や、多様な入試の実施を推進するとともに、外国人留学生の受入れに関する総合的な支援体制を強化する。 また、多様な留学プログラムで受入れを拡大するとともに、平成33年度までに年間2,300人以上の留学生を受け入れる。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画4-1-1-4（★）（◆）（＊） （No.51）学事暦の柔軟化により、日本人学生の留学を促進するための仕組みと、多様なプログラムを充実するとともに、海外派遣に関する総合的な支援体制を強化する。 海外の留学トレーニングスタジオの設置や、多様な留学プログラムの開発により、平成33年度までに年間900人以上を留学させ、グローバル人材の育成を推進する。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	

中期目標（大項目） 中期目標（中項目） 中期目標（小項目） 中期計画	判定		下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値
中期計画4-1-1-5（★）（◆） （No.52）外国人教員等の積極的採用、国際交流協定の締結、海外からの研究者受入れ、国際共同研究の積極的推進、海外拠点の整備、本学の学生及び教員の派遣等によりグローバル化を推進する。 また、国際教養学部を中心に、国際理解と日本理解の上に俯瞰的視野を持って課題を発見・解決できるグローバル人材を育成するために、SULAを配置・育成し、学生個人の成績データを活用しながら、テーラーメード教育を実践する。	【2】	中期計画を実施している	

※　中期計画に表示されている記号が示す内容は、それぞれ以下のとおり。
（★）:「個性の伸長に向けた取組」に特に関連する中期計画（「法人の特徴」参照）
（◆）:文部科学省国立大学法人評価委員会に承認された「戦略的かつ意欲的な目標・計画」
（＊）:新型コロナウイルス感染症による影響を特に考慮して分析・判定した中期計画

※「下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値」のうち、大項目「教育」「研究」の数値については、
中項目の判定に使用した数値をそのまま大項目ごとに平均して算出し、その上で学部・研究科等の現況分析結果による加算・減算を行っている。

【教育】　達成状況評価　　現況分析:「教育」

$$\left(\begin{array}{l}\text{当該法人における}\\\text{大項目「教育に関する目標」}\\\text{の中項目の平均値}\end{array}\right) + \left\{\left(\begin{array}{l}\text{当該法人における}\\\text{（Ⅰ 教育活動の状況）、}\\\text{（Ⅱ 教育成果の状況）}\\\text{の全判定結果の平均値}\end{array}\right) - 2^{注1}\right\} \times \text{係数 } 0.5^{注2}$$

【研究】　達成状況評価　　現況分析:「研究」

$$\left(\begin{array}{l}\text{当該法人における}\\\text{大項目「研究に関する目標」}\\\text{の中項目の平均値}\end{array}\right) + \left\{\left(\begin{array}{l}\text{当該法人における}\\\text{（Ⅰ 研究活動の状況）、}\\\text{（Ⅱ 研究成果の状況）}\\\text{の全判定結果の平均値}\end{array}\right) - 2^{注1}\right\} \times \text{係数 } 0.5^{注2}$$

注1　現況分析は4段階判定となっており、【2】判定（相応の質にある）が基準となる判定のため、現況分析の教育または研究の全判定結果の平均値が2を上回る場合は加算、下回る場合は減算となる。
注2　現況分析結果の加算・減算に当たっては、達成状況の評価結果であることを考慮し、係数「0.5」を設定する。
なお、加算・減算後の数値は小数点第3位を切り捨て処理しているため、現況分析結果加算点と教育または研究に関する大項目における判定の平均値の合算値が一致しないことがある。